

阿武郡報

大正三年六月五日

第一號

防長業書

五

官廳事故

郡令、告示、

地方行政

目

社

衛

兵

次

教

產

寺

生

事

育

業

昭憲皇太后十二德御歌

奉悼ノ歌

叙任及郡書記辭令

郡書記

町村吏員異動

教員辭令

◎基本財産蓄積◎條例許可◎大喪儀參列許可者◎

職業別人口數◎視察復命書

◎豫算認可◎寺院移轉

◎傳染病患者◎談話會

◎海軍志願者◎徵兵檢查成績◎聯隊區司令官口演

要旨

◎時間勵行◎壯丁教育學力試驗問題及成績◎出席

步合◎教員部會◎青年會

◎共同特種組合設置獎勵◎柿柑改良◎產業組合現

況◎耕地整理◎肥料配合◎泥負虫驅除◎肥牛組合

設置◎春蠶掃立◎輕便養蠶法傳習◎勸業ニ關スル

縣郡獎勵金下附◎獎勵規程廢止

秋四

寄贈

070
93



昭憲太后二十德御歌

節制

花の春もみちの秋のさかつきも
ほと／＼にこそくまほしけれ

清潔

白砂の衣のちりははらへとも
うきはこゝろのくもりなりけり

勤勞

磨かすは玉の光りはいてざらん
人の心もかくこそあるらし

沈黙

過きたるは及はさりけりかりそめの
言葉もあたに散らさゝらなむ

確志

人こゝろかゝらましかは白玉の
眞玉は火にもやかれさりけり

誠實

とり／＼につくるかさしの花もあれど
にほふこゝろのうるはしきかな

温和

乱るへきをりをはおきて花櫻
まつ笑むほさをならひてしかな

謙遜

高山の影をうつして行く水の
ひくきにつくをこゝろごもかな

順序

奥ふかき道もきはめむものことの
もどすゑをたにたかへさりせば

節儉

吳竹のほどよきふしをたかへすは
すゑ葉のつゆもみたれさらまし

寧靜

いかさまに身はくたくともむら肝の
こゝろはゆたにあるへかりけり

公義

國民をすくはん道も近きより
おし及さん遠きさかひに

奉悼歌

男爵 千家尊福作歌

金剛石の御さごしに 磨くころの玉筥

袖の涙は拂ひても 盡きぬ歎をいかにせむ

時計の針の御をしへを 深く心にきざみつゝ

學の業にいそしみて 大御靈をば慰めん

阿武郡報

第壹號

官廳事故

叙任及辭令

四月廿八日

任三重縣知事

山口縣知事
從四位勳三等

馬淵銳太郎

叙高等官一等

熊本縣知事
從四位勳三等

赤星 典太

任山口縣知事

山口縣警察
部長從六位

後藤 隆三

叙高等官二等

山口縣警察
部長從六位

佐藤 信安

叙高等官五等

熊本縣警察
部長從六位

叙從八位

四月廿六日 山口縣染織講習所書記

岩政 要次

願ニ依リ本職ヲ免ス

五月四日 任山口縣技手

橋本小三郎

給月俸壹圓

同日 日 山形縣農業技手

橋本小三郎

山口縣農業技手ニ任ス

六給俸給與

內務部勸業課勤務ヲ命ス

同日 山口縣染織講習所書記ニ任ス

河野末次郎

七級俸給與

五月十日 給六級俸山口縣阿武郡書記

堀 美輔

五月十一日 山口縣水産試驗場技手

藤井 知之

願ニ依リ本職ヲ免ス

五月廿日 山口縣阿武郡書記勳八等

神崎 良三



(1)

町村長 助役 收入役 異動

町村名	種別	認可月日	就任又ハ退職月日	氏名
生雲村	收入役	四月九日	四月三日	桑原與太郎
同村	同	同	四月三日	桑原與太郎
地福村	助役	五月二日	五月七日	木橋 暢三
同村	同	同	五月八日	三好 音吉
德佐村	同	五月二日	五月十日	大庭平次郎
同村	同	同	五月十日	大庭平次郎
高俣村	村長	四月廿五日	四月三日	倉増 美資
吉部村	收入役	五月五日	五月十日	末成 喜一
同村	同	同	五月十日	末成 喜一

阿武郡立實科高等女學校教員辭令

新任ノ部

辭令月日	職名	俸給	氏名
四月五日	教諭	七級俸	坂口 五郎
全六日	教諭兼舍監勤務	加俸貳圓	河原 夏
全九日	助教諭	七級俸	田中タカコ
全廿五日	兼舍監勤務	加俸貳圓	全 人
轉任ノ部			
辭令月日	職名	任地	氏名
四月十五日	教諭	熊本縣出向	高田 テツ
増俸ノ部			
辭令月日	職名	増俸	氏名
四月六日	教諭	八級俸 當分三七	河原 夏
全	全	九級俸	本永 旭
全	助教諭	六級俸 當分二四	世良 ハツ

萩町立明倫商業補習學校

辭令月日	職名	増俸	氏名
全	助教諭心得	二〇圓	河崎 スエ
全	書記	一八圓	河村 一郎
全	助教諭心得	一八圓	齋藤 タカ
全廿五日	教諭	六級俸 當分四八	中野 貞介

小學校教員辭令

新任ノ部

(四月以後)

辭令月日	職名	増俸	氏名
四月三十日	訓導	五級俸	守田 禎一
全	全	六級俸	宮川 令輔
新任ノ部			
辭令月日	新任校名	職名	俸給
四月十日	川上	准訓導	六、下
全十四日	下小川	准訓心得	八圓
			澤村 於京

轉任ノ部

辭令月日	轉任校現任校職名	俸給	氏名
全十五日	龜山	全	堀 キヨ子
全廿九日	大島	准訓導	寺山 豊次
五月七日	佐々並	全	溝部 キク
五月十日	生雲	全	福谷 チヨ

退職ノ部

辭令月日	退職事由	校名	職名	氏名
四月廿四日	大井	福田	訓導	廣石 鐵多
五月九日	福川	下小川	全	十、上
全二十日	立野	福川	准訓導	山縣 ミツ
辭令月日	退職事由	校名	職名	氏名
四月六日	師範校入學	大井	准訓導	山村 秀一
全九日	依願	龜山	准訓導心得	藤井ヒサヨ

辭令月日	學校名	職名	増俸	氏名
四月十日	福田	准訓導	六、上	宮内 リヨ
全	育英	訓導兼校長	五、下	小嶋 潤一
全		訓導	七、上	神屋 常萬
全			九、上	伊藤源四郎
全			九、上	増野安五郎
全			八、上	志賀 定彦
全	彌富	准訓導	四、下	仁保 龜一
全	小川	專科訓導	八、下	岩佐 サチ
全	多磨	准訓導	五、上	長見 宜章
全	明倫	准訓導心	十四圓	長峰 英人
全	川上	專科訓導	八、上	阿武 ナミ
全	生雲	准訓導心	七圓	都築ナミコ
全	龜山	得	十一圓	佐伯 節生
全	宇田	全	十圓	石下 ヒチ

郡令告示

阿武郡告示第十七號

蘭苗下付規則左ノ通定ム

大正三年四月一日

蘭苗下付規則

第一條 蘭ノ栽培ヲナサントスル者ニハ本則ニ依リ苗ヲ無代下附ス

第二條 下附スヘキ數量其ノ他必要ナル事項ハ毎年

郡長宛

備考

特ニ本様式ニ依ラズシテ各人別ニ申請スルコトヲ望ムモノアルトキハ其ノ便宜ニ任ス

阿武郡告示第十八號

大正二年四月阿武郡告示第二十六號品評會賞狀及獎勵金下付規則中左ノ通改

大正三年四月四日

第二條 左ノ各號ニ該當スル品評會ヲ開設スルトキハ本則ニ依リ褒賞狀及獎勵金ヲ下附ス

一、開設者ノ如何ニ係ハラズニケ町村以上ノ區域ニ互リ聯合シテ開設スルコト

二、審査長ハ縣又ハ郡ノ技術員タルコト

但シ前記以外ノ審査長タルトキハ豫メ郡長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

數	量	住所氏名
何反	何畝	何町村 何某 印
植		以下町村名 以下運署
計		省署ノコト

九月之ヲ告示ス

第三條 下附ヲ受ケントスル者ハ前條ノ告示後二十日以内ニ左記様式ニヨリ申請スベシ

第四條 下附ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ指定ノ期間内ニ受領セザルトキハ其ノ効力ヲ失フモノスト

第五條 下附ヲ受ケタル苗ハ他人へ賣渡又ハ讓渡スルコトヲ得ズ

附則

本則ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(様式)

蘭苗下附申請

右ノ通御下附相成度此段申請候也

年 月 日

第三條 褒賞狀ノ下附ヲ受ケントスルモノハ開會七日
前ニ様式第一號ニヨリ申請スベシ獎勵金ノ下附ヲ
受ケントスルモノハ開會後七日以内ニ様式第二號
ニヨリ申請スベシ

阿武郡告示第十九號

大正二年四月阿武郡告示第三十號種牡牛
購入補助金下附規則ハ之ヲ廢止ス

但シ已ニ補助金ノ下附ヲ受ケタル種牡牛ハ使用ニ
供シテヨリ一ケ年間轉賣又ハ讓與スルコトヲ得ザ
ルモノトス

大正三年四月四日

阿武郡告示第二十號

肥牛組合獎勵金下付規則左ノ通定ム

大正三年四月十一日

第一條 肥牛組合獎勵金下附規則

當業者二十名以上規約ヲ結ビテ組合ヲ組織シ
左ノ各號ヲ履行スルモノハ本則ニ依リ獎勵金ヲ下
附ス

一、畜舎ノ設備ヲ改良スルコト

二、畜牛ハ共同賣買ヲナスコト

三、畜牛ハ育成或ハ肥養ヲ行フコト

四、飼料ノ共同購買ヲナスコト

五、組合員相互救済ノ方法ヲ設ケルコト

第二條 獎勵金ハ一組合金貳拾圓以内トス

第三條 獎勵金ノ下附ヲ受ケントスルモノハ組合規約
書並役員及組合員氏名ヲ記入シタル書面ヲ添付シ

様式第一號ニ依リ申請スヘシ

第四條 組合規約ノ變更ヲナサントスルトキハ郡長ノ
承認ヲ求ムヘシ

第五條 獎勵金ノ下附ヲ受ケタルモノハ三ケ年以上規
約ニ定メタル事業ヲ繼續履行スル義務アルモノト

ス若シ中止シタルトキハ下附シタル金額ノ全部若
クハ一部ヲ償還セシムルコトアルヘシ

第六條 獎勵金ノ下附ヲ受ケタルモノハ三ケ年間毎年
一月限リ前年内ニ於ケル事業ノ狀況ヲ様式第二號

ニ依リ報告スヘシ

附則

本則ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様式第一號

肥牛組合獎勵金下附申請

今般肥牛組合設立致候條肥牛組合獎勵金下附規則ニ依
リ獎勵金御下附相成度別紙規約書并役員及組合員氏名
書相添此段申請候也

年 月 日

何 村

何肥牛組合長 氏名 印

郡 長 宛

様式第二號

肥牛組合事業狀況報告

大正何年本組合事業狀況左記ノ通りニ有之候條肥牛組
合獎勵金下附規則第六條ニ依リ此段及報告候也

年 月 日

何 村

何肥牛組合長 氏名 印

郡 長 宛

記

一、畜牛賣買頭數並價額

計	牝		牝		牝	
	頭數	價額	頭數	價額	頭數	價額
計	一八	五六〇、〇〇〇	一五	九八〇、〇〇〇	八	五六〇、〇〇〇
	八	一六〇、〇〇〇	七	四二〇、〇〇〇		

一、飼料共同購入數量并價額

計	何々		何々	
	數量	價額	數量	價額
計	二五、〇〇〇	四五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇		

一、救済シタル人員並金額

救済人員	救済金額	備	考
二人	三〇、〇〇〇	斃死貳拾圓一人 廢用拾圓一人	

- 一、救済基金積立額
- 金何圓何拾錢
- 一、組合員數
- 何人

阿武郡告示第二十一號
種牡候補牛保存獎勵金下付規則
左ノ通定ム

大正三年四月四日

- 種牡候補牛保存獎勵金下附規則
- 第一條 年齡滿六ヶ月以上ノ牝犢ヲ種牡牛ニ供用スル
目的ニテ育成スルモノハ本則ニ依リ獎勵金ヲ下付ス
- 第二條 獎勵金ハ一頭ニ付金拾圓トス
- 第三條 獎勵金ノ下付ヲ受ケントスルモノハ左記様式

- ニ依リ申請スベシ
- 第四條 獎勵金ハ實地調査ヲナシ檢査ニ合格シタルモノニ下付ス
- 第五條 獎勵金ノ下付ヲ受ケタルモノハ其牝犢ヲ種牡牛ニ供シテヨリ一ケ年間轉賣スルコトヲ得ス
但シ已ムヲ得ザル事情ニ依リ轉賣セントスルトキハ郡長ノ認可ヲ受クベシ
- 第六條 前條期間内ニ認可ヲ受ケズシテ轉賣シタルモノハ獎勵金ヲ返還セシムルコトアルベシ
- 附則
本則ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 様式
種牡候補牛保存獎勵金下附申請
- 一、種類
- 一、生年月日
- 一、毛色
- 一、特徴
- 一、産地
- 一、血統父母

右種牡候補牛トシテ保存致度候條種牡候補牛保存獎勵

阿武郡告示第二十三號
水産業獎勵金下付規則左ノ通定ム

大正三年四月十一日

- 水産業獎勵金下付規則
- 第一條 本郡内ニ原籍住所ヲ併有スルモノニシテ左ノ事業ヲ營ムモノハ本則ニ依リ獎勵金ヲ下付ス
 - 一、鱈ノ粕ヲ製造スル爲メ壓搾器ヲ設備スルモノ
 - 二、煮干鱈製造ノ爲メ煮籠ヲ設備スルモノ
- 第二條 獎勵金ハ左ノ標準ニ依リ下付ス
 - 一、壓搾器ヲ設備スルモノ 一臺ニ付金拾五圓以內
 - 二、煮籠二百枚以上ヲ設備スルモノ 二人ニ付金五圓以內

金下附規則ニ依リ獎勵金御下附相成度此段申請候也

年 月 日

何町(村)

氏 名 印

郡 長 宛

- 第三條 獎勵金ノ下付ヲ受ケントスル者ハ事業着手前様式第壹號ノ申請書ヲ差出スベシ
- 第四條 設備ヲ了リタルトキハ様式第貳號ニ依リ届出ツベシ
- 第五條 獎勵金ノ下付ヲ受ケ其事業ヲ營マザルトキハ已ニ下付シタル獎勵金ノ全部又ハ一部ヲ償還セシムルコトアルベシ
- 附則
本則ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十五年四月阿武郡告示第貳拾號水産業補助金下付規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
- 様式第壹號
鱈ノ粕用壓搾器(煮干鱈製造用煮籠)設備獎勵金下付申請

今般左記ノ通鱈ノ粕用壓搾器 煮干鱈製造用煮籠)設備致度候條水産業獎勵金下付規則ニ依リ獎勵金御下付相成度此段申請候也

年 月 日

住所

氏 名 印

郡長宛

記

一、構造ノ概要(可成圖面ニテ標示シ説明ヲ附記スルコト)

二、設置場所

様式第貳號

鯿ノ粕用壓搾器(煮干鯿製造用煮籠)設備終了届

大正何年何月何日勸第何第獎勵金下付御許可相成候鯿ノ粕用壓搾器(煮干鯿製造用煮籠)何月何日設備終了候處經費清算左記ノ通ニ有之候條水産業獎勵金下付規則ニ依リ此段及御届候也

年 月 日

住所

氏 名 印

郡長宛

經費清算細目

阿武郡告示第二十四號

大正二年四月阿武郡告示第三十二號蠶業

ヨリ第二條第二項第三號ノ出金ヲ控除シタル殘金額」ト改メ其次ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ教師ガ町村若クハ町村農會ニ常置シタル技術員タル場合ハ養蠶期間ニ於ケル給料額ヨリ第二條

第二項第三號ノ出金ヲ控除シタル殘金額トス

第四條 第二號中「稚蠶共同飼育」トアルヲ「養蠶教師設置」ト「三月末日」トアルヲ「一月十五日」ト改ム

第五條 「第二號」ヲ削除シ「第三號」ヲ「第二號」ト「第四號」ヲ「第三號」ト改ム

様式第一號中「稚蠶共同飼育」トアルヲ「養蠶業」ト改ム

様式第三號ヲ左ノ通改ム

養蠶教師設置豫定届

本年春(夏秋)季ニ於テ養蠶教師設置ノ豫定ニ有之候條蠶業獎勵金下付規則ニ依リ左記事項ヲ具シ此段及御届候也

年 月 日

何町村何組合

獎勵金下付規則中左ノ通改正ス

大正三年四月廿九日

第一條ヲ左ノ通改ム

町村、町村農會又ハ當業者拾五名以上規則ヲ結ビ設立シタル組合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ヲナストキハ本則ニ依リ獎勵金ヲ下付ス

一、共同桑園ノ設置

但シ縣費獎勵金ヲ受ケザルモノニ限ル

二、養蠶教師ノ設置

三、乾繭機ノ設置

四、蠶業上特別ノ施設

第二條 第二項中「稚蠶共同飼育」トアルヲ「養蠶教師設置」ト同條同項「第壹號」ヲ「蠶量貳拾匁以上

掃立ツルコト」ト同條同項「第貳號」ヲ削除シ同條

同項「第三號」ヲ「第二號」ト改メ其次ニ左ノ壹

號ヲ加フ

三、教師設置者ニ於テ掃立蠶量壹匁ニ付金拾錢宛支

出スルコト

第三條 第二項ヲ「養蠶教師設置獎勵金ハ教師給料額

郡長宛

組合長 氏 名 印

記

一、掃立豫定月日

何月何日

一、掃立豫定蠶量

何百何拾何匁

様式第四號ヲ左ノ通改ム

養蠶教師設置獎勵金下付申請

本年春(夏秋)季養蠶教師ヲ設置シ左記ノ通蠶兒飼育致候條蠶業獎勵金下付規則ニ依リ獎勵金御下付相成度此段申請候也

年 月 日

何町村何組合

郡長宛

組合長 氏 名 印

記

一組合員氏名別掃立蠶量收繭額

蠶ノ品種	蠶量	上簇	收繭量	蠶量一匁ニ對スル收繭量	氏 名
		月日			

計

- 二、掃立月日
- 三、教師或ハ擔當者原籍氏名
- 四、同上給料
- 五、蠶種製造者住所氏名
- 六、桑葉供給方法

阿武郡告示第二十五號

大正二年四月阿武郡告示第三十二號大正三年四月阿武郡告示第二十四號蠶業獎勵金下付規則第四條第二號中養蠶教師設置豫定屆書差出期日「一月十五日」トアルヲ本年限リ「五月十日」トス

大正三年四月二十五日

阿武郡告示第二十六號

大正二年四月阿武郡告示第二十一號山口縣阿武郡立實科高等女學校補習科規則中左ノ通改正ス

大正三年三月三十一日

第七條ヲ左ノ通改ム

第七條補習科ノ授業料ハ壹箇月金六拾錢トス

地方行政

基本財産蓄積

町村基本財産蓄積條例ハ各町村ヲ通シ設定セラレタルハ喜ブベク又其ノ造成目按表ノ完成セル町村左ノ如シ

椿郷東分村、山田村、明木村、生雲村、地福村、徳佐村、吉部村、福川村、奈古村、宇田郷村、福賀村、彌富村、見島村

◎小學校基本財産蓄積條例ハ大部分設定ヲ見ルニ至レルモ尙村ノ財政其ノ他ノ事情ノ爲未ダ其運ニ至ラザルモノ六ヶ村アルハ甚サ遺憾トスル所ナリ

條例許可

諸條例ニシテ本年四月以降許可セラレタルモノ左ノ如シ

- 生雲村公告式條例、徳佐村、住民印鑑條例
- 奈古村傳染病豫防救治ニ従事者ニ關スル給與條例
- ◎大葬儀奉拜ヲ差許サレタル者

恩賜財産濟生會員ニシテ同會ヘ千圓以上寄附シタル左記五名ノ者ハ本月三旨大喪儀ノ節代々木練兵場表門葬場殿總門御通路側ニ於テ奉拜ノ儀差許サレタリ

萩町菊屋剛十郎氏 同町大岡與右衛門氏
明木村瀧口吉良氏 小川村小河源吉氏
小川村町原甚吉氏

◎大正二年十二月末現在ニ於ケル本郡職業別現住人口戸數左ノ如シ

職業別	主 業		副 業	
	戸數	從業者其ノ他 合計	戸數	從業者
農 業	二、三五四	七、三二七	一、二七	七、〇三二
商 業	三、二七五	七、三二二	一、四八五	一、三九九
漁 業	一、六四三	二、八五五	四、九二七	七、七三三
工 業	二、〇六六	四、七五二	四、三三六	九、〇八九
庶 業	一、一九四	三、一六二	二、〇八八	五、二五〇
無職業及 職業不詳	一、二六八	五、二	五、四七九	六、〇六二
總 計	三、七二六	二、六四五	二、六三二	一、九〇〇
			六、三八三	三、五二〇

阿武郡令第四號

明治四十五年五月阿武郡令第八號阿武郡會計規則中左ノ通改正シ大正三年度ヨリ施行ス

大正三年四月十五日

第十九條中第三期「十一月四日」ヲ「十一月三日」ニ改ム
第三十三條第一項中「俸給」ノ下ニ「概算拂ニ係ル旅費」ヲ加フ

第三十四條第二號中概算拂以下ヲ削ル
第百條 財務係ハ三ヶ月毎ニ左ノ區分ニ依リ計算書ヲ

調製シ證書書類ヲ添ヘ翌月二十日迄ニ其ノ收入支出ヲ郡長ニ證明スベシ

- 第一期 (四月ヨリ六月迄)
- 第二期 (七月ヨリ九月迄)
- 第三期 (十月ヨリ十二月迄)
- 第四期 (一月ヨリ三月迄)
- 第五期 (四月ヨリ六月迄)

第四條 各等差間ノ歩合算定法ハ杉形法ヲ以テ左表ノ

通段落ヲ定ム

一等差杉形段落表

等級	個人所得	等級	個人所得	等級	個人所得
一	一〇、〇〇〇	一二	七、九二一	二三	六、〇八四
二	九、八〇一	一三	七、七四四	二四	五、九二四
三	九、六〇四	一四	七、五六九	二五	五、七七六
四	九、四〇九	一五	七、三六九	二六	五、六三六
五	九、二一六	一六	七、二二五	二七	五、四七六
六	九、〇二五	一七	七、〇五六	二八	五、三二九
七	八、八三六	一八	六、八八九	二九	五、一八四
八	八、六四九	一九	六、七二四	三〇	五、〇四一
九	八、四六四	二〇	六、五六一	三一	四、九〇〇
一〇	八、二八一	二一	六、四〇〇	三二	四、七六一
一一	八、一〇〇	二二	六、二四一	三三	四、六二四

三四	四、四八九	四九	二、七〇四	六四	一、三六九
三五	四、三五六	五〇	二、六〇一	六五	一、二九六
三六	四、二二五	五一	二、五〇〇	六六	一、二二五
三七	四、〇九六	五二	二、四〇一	六七	一、一五六
三八	三、九六九	五三	二、三〇四	六八	一、〇八九
三九	三、八四四	五四	二、二〇九	六九	一、〇二四
四〇	三、七二一	五五	二、一一六	七〇	九七一
四一	三、六〇〇	五六	二、〇二五	七一	九〇〇
四二	三、四八一	五七	一、九三六	七二	七八一
四三	三、三六四	五八	一、八四九	七三	七八四
四四	三、一四九	五九	一、七六四	七四	七二九
四五	三、一三六	六〇	一、六八一	七五	六七六
四六	三、〇二五	六一	一、六〇〇	七六	六二五
四七	二、九一六	六二	一、五二一	七七	五七六
四八	二、八〇九	六三	一、四四四	七八	五二九

右ニ依リ決定シタルモノハ村會ニ提出前各區長ヲ召集

シ區長ノ意見ヲ質シ後村會ニ附議ス依テ村會ニ於テハ殆ンド嘴ヲ入ル、餘地ナク一時間乃至二時間ニシテ議決スト云フ

之ノ方法ハ明治廿七年ヨリ實施シ來リツ、アリト納稅成績ハ現村長就職以前ハ免角滯納者アリ勝チナリシヲ明治四十四年豊浦郡彦島村ニ範ヲ取リ納期一覽表ヲ厚紙ニ調製シ柱ニ掛クル様ナシ各戸ニ配付シテ注意ヲ促シ且ツ納稅期日ニハ二ヶ村ニ出張徴收ヲナス等大ニ改良ヲ加ヘ滯納者ヲ出サス様ナリタリトイフ

七九	四八四	八六	二二五	九三	六四
八〇	四四一	八七	一九六	九四	四九
八一	四〇〇	八八	一六九	九五	三六
八二	三六一	八九	一四四	九六	二五
八三	三二四	九〇	一一一	九七	一六
八四	二八九	九一	一〇〇	九八	九
八五	二五六	九二	八一	九九	四
				免除	四

本村特殊部落ヲ舟本ト稱シ同部落ノ改善亦行届キ居レリ本部落ノ區長ハ國弘某ト稱シ同ジク同部落ノ人ナルガ慶應義塾ヲ卒業シ相當學識アル人ナリ同人ハ最初部落民ノトラホーム患者根治ヲ思ヒ立チ私財ヲ投シ自家ニ患者ヲ集メ防府町醫師ヲ日々聘シ治療セシメタル結果現今ニ於テハ殆ド根治シ得タリト又部落民ノ爲購買組合ヲ組織シ日常必須ノ品ハ全部網羅シ販賣ヲナス現今ニテハ結果良好ナルモ一時ハ商店等ノ不平ヨリ事業ニ支障ヲ來シタリシコト多クアリタリト同人ハ語レリ尙面白キハ部落民ニ貯金セシムル方法ナリ先ヅ本部落ヲ十八區ニ分チ一區毎ニ一個ノ集金箱ヲ作り巡番ニテ其一小區ヲ集金スルモノナリ而シテ貯金額ハ一戸一日金壹錢トス十五日ノ後國弘氏ハ一小區長ト立合ノ上其箱ヲ開キ若シ拾五錢ニ不足ヲ來シ居ル場合ハ直チニ其家ニ就キ集金シ若シ拾五錢以上アリタル場合ハ剩餘金ハ一應其家ニ返濟ス斯クシテ貯蓄セシ金ハ郵便貯金トナシ利殖ヲ計ルモノトス其他清潔方法風紀等ニ關シテハ一定ノ規定ヲ設ケ若シ之ニ違背シタルモノハ相當ノ處罰ヲナス等總テノ方面ニ於テ改善ヲ計リツ、アリ結果普通此ノ部落ニ於テ見ルトラホーム、不潔等ヲ見

ズ只家屋ノ隘小ニシテ密接シ道ヲシキ道ナキヲ如何セ
 本村各組合及團體トシテハ右田漁業組合、水利組合、
 防長米組合、軍人團、村農會、戶主會、青年會、婦人
 會、校友會、少年會、男子同窓會、女子同窓會アリ各
 會トモ年一回總會ヲ開カシム殊ニ青年會戶主會ハ總
 會ノ節村農會ヨリ金壹圓ヲ補助スル事トセリ
 本村長ノ最モ自慢ナルハ村役場ヲ距ル西方數
 町百七十有餘坪ノ建物即チ傳染病院之レナリ本建物
 ハ明治四十三年ノ建築ニシテ萬端ノ設備ヨリ整ヒ清潔
 法、消毒法亦充分行届キ居レリ嘗テ村長ノ友人某村長
 ヲ村役場ニ訪問ス時正ニ正午ナリケレハ村長「本日ハ
 何物モナケレド午餐ヲ傳染病院ニ於テ拱セン」ト友人
 某曰ク「如何ニ珍ラシキ客ナレバト傳染病院ニテ午
 餐ヲ給スル等ハアマリニ風變リナラスヤ」ト村長「先
 ツ予ト共ニ來レ」トテ多クヲ語ラスシテ案内ス愈々病
 院ニ至レルニ客人驚キテ曰ク「前ノ過言ヲ謝シ快ク午
 餐ヲ受ケン」ト之ノ逸話ヲ以テスルモ如何ニ清潔法及
 消毒法（毎月二回消毒ヲ行フ）行届ケルカヲ知ルヲ得
 ベシ又昨年ヨリ傳染病死者ノ爲ニ病院火葬場間ニ用フ

ル黒漆塗ノ山籠ヲ作り且ツ納棺ノ際及火葬ノ際ノ兩度
 僧侶ヲ招キ讀經セムシ依テ村民皆其舉ヲ喜ヒ萬一傳染
 病ニ罹リタルモノハ喜ンデ入院ストイフ
 佐波郡華城村
 防府町ノ西方ニ位シ戸數七百戸人口三千九百二十ヲ有
 ス

生等本村視察ノ日ハ恰モ同村小學校卒業式當日ニシテ
 村長ハ同式ニ列席ノ爲不幸ニシテ面談ヲ得ス助役又謙
 遜ニシテ多クヲ談ラレザリシハ重々遺憾トスル所ナリ
 納稅成績ハ實ニ佳良ニシテ右田村ノ如ク納期一覽表ヲ
 配付スルニモアラス又處々ニ徵稅所ヲ設クルニモアラ
 ザルニ期日迄ニハ全部村役場ヘ納付ストイフ、村ニ戸
 主會、婦人會、青年會、修身會、教育團、軍人會アリ
 修身會ハ會名ヲ光宗寺修身會ト稱シ明治三十八年戰勝
 紀念事業トシテ本村眞宗光宗寺住職神保達元氏發起ト
 ナリ道德心公徳心ノ欠乏ヲ補フ目的ヲ以テ本會ヲ組織
 シ九月二十四日ノ秋季皇靈祭ヲトシ發會式ヲ舉行セリ
 會員ハ尋常科第四學年以上ノ兒童ニシテ毎月第四日曜
 日午前九時開會トス開會ノ都度學校教員ニ參聽ノ廣告
 ヲ依頼シ同年齡者ハ村ノ内外ハ問ハズ宗旨ノ自他ヲ眼

中ニ置カス廣ク參聽セシムル希望ナリ講師ハ神保達元
 氏及佐波郡西浦村信行寺副住職久保玄又氏ノ二名主ト
 シテ之ニ當リ其他ハ小學校教員ノ内壹名以上必ズ出席
 ヲ請ヒ軍人教育家實業家ハ時宜ニヨリ之ヲ加フ會費ハ
 募集セス少額ノ實費ハ發起者之ヲ支辨ス本會ハ年ト共
 ニ漸次盛大ニ赴キ現今會員數三百三十七名ヲ有ス教育
 團ハ團名ヲ華城教育團ト稱シ明治三十三年五月十日
 今上陛下ガ未ダ 皇太子殿下ニ在ス際大婚ノ御慶事ヲ
 永遠ニ紀念スル爲メ設立シタルモノニシテ本村ノ教育
 及風儀ノ發達改善ヲ圖ルヲ以テ目的トス本團ニ團長壹
 名、理事四名、監事二名、評議員十六名ノ役員ヲ置キ
 凡テ名譽職トシ任期ヲ三ケ年トス本團ノ事業ハ
 一、本村子弟ノ學業品行優等ノ者ニ對シテ旌表若クハ
 賞與ヲナス事
 二、有益ナル圖書器具等ヲ購入シテ普通教育ノ發達ニ
 資スルコト
 三、通俗講談會幻燈會夜學會等ヲ開設スルコト
 四、貧困ノ爲就學シ能ハザル者ニハ學校用品若クハ必
 要ノ金錢物品等ヲ給與スルコト
 五、其他教育上必要ナル事項トス三年度經費約二百十

圓ニシテ基金二千二百六十二圓五十錢ヲ有ス團員百三
 十九名
 面白キハ村農會ノ總會トス農會員ノ負擔ハ一戸米五合
 麥五合及田地一反ニ付金三錢ヲ課ス而シテ

記
 一米(又ハ麥)五合
 是ハ大正二年度農會費物件徵
 收ノ分
 右正ニ領收候也
 大正年月日
 華城村農會
 其金穀ハ一定ノ期日
 ニ使丁ニ上圖ノ如キ
 領收証ヲ持シ各戸ニ
 就キ徵收セシム而シ
 テ總會ノ際ハ數日前
 ニ會員ニ通知書ヲ發

シ出席ヲ促シ當日ハ農會ヨリ白米三俵ヲ出シ握飯ヲ作
 リ一人三個宛ヲ通知書ト引替ニ渡シ終日會合安息ヲナ
 サシムトイフ
 本村ハ麥ノ收穫思ハシカラサルニ依リ昨年埼玉縣大里
 郡別府村權田愛三氏ヲ聘シ權田式麥作法ノ講習ヲ開キ
 本年各所ニ合計十町步許ヲ實施シ其結果ヲ見テ來年度
 ヲリ全部實行ノ考ナリト云フ權田式麥作法ノ要領左ノ
 如シ
 權田式麥作要項

一、種類

大麥、關取リ、虎ノ尾、谷風
裸麥、米麥、白玉裸
小麥、小備前、赤達摩、八石

二、撰種

種子ハ何レノ種類ヲ問ハス大粒ノモノヲ撰ヒ必ス
塩水撰ヲナシ麥奴豫防ヲナスコト

一、播種量

播種量ハ一反歩ニ付大麥四升裸麥三升五合小麥五
升トス

但シ播種當日降雨ニ際スル時ハ播種量ヲ何レモ五
合位増スコト

一、播種期

播種期ハ大麥ハ十月二十日ヨリ三十日迄裸麥ハ十
月十五日ヨリ三十日迄小麥ハ十月十日ヨリ二十日
迄トス

(注意)右期日ニ遅レサル様ニスルコト肝要ナリ

一、整地

整地ハ田ノ周圍即チ畦邊ヲ鎌ニテ切り廻シ二鋤堀
位ニ溝ヲ堀リ上ケ可成田ノ中央ニ其ノ土ヲ散布シ

ケ吸收セシメ置キ又水肥ヲ單ニ使用スル場合ハ堆
肥ヲ埋メタル上ニ施用スベシ

右肥料ノ外ムグラ等ノ害ヲ防クニハ鷄糞一斗五升
位ヲ施スヲ宜ロシトス

一、肥料ノ遣り方

先ツ堆肥ヲ雁岐ニ二寸許リノ厚サニ敷キ其上ニ魚
粕其他金肥ノ類(價格一反歩四五圓ニ相當スル
肥料)ヲ撒布シ其ノ上ニ厚サ六分ノ土ヲ覆ヒ其上
ヲ風呂鍬ノ如キモノニテ雁岐ヲ平均ニシ然ル後種
子ヲ蒔クモノトス

一、種子ノ蒔き方

種子ハ必ズ丁寧ニ雁岐巾(六寸)全体ニ不同ナク
之ヲ蒔キ其上ニ衣肥トシテ右ノ土灰ヲ散布シ其上
ニ二分乃至三分ノ土ヲ草鞋ヲ穿テ横歩ニ踏ミ付ク
ルコト而シテ土ヲ覆フ器具ハ土掛ケ鋤籠ヲ以テス
ルトキハ其作業容易ナリ

一、冬季ノ手入

(一)初回ノ土入

初回ノ土入ハ種蒔キ後二十五日乃至三十日目ニ六
分ノ土入ヲナシ同時ニ踏ミ付クルコト而シテ此ノ

置キ而シテ田ノ一方ヨリ廻リ鋤キトナシ漸次中央
ニ鋤キ終ルモノトス地杓シ土塊碎キハ適宜ノ法ヲ
以テシ可成田ノ中央ヲ高クスル様整地スルコト
(注意)整地ハ當地方ニ於ケルカ如ク粗鋤キヲナシ三
四日ハ晒シクレ返シヲナシ上下共土塊ノナキ様
能ク粉碎シ又稻株ハ悉ク田ヨリ掻キ出シ而シテ稻
株ハ堆肥ニ製造スルカ止ムヲ得サレハ蒸焼キトナ
シ灰肥トナス可シ

一、雁岐ノ造り方
麥田ニハ畦ヲ作ラスシテ一面トナシ畦ノ一方ヨリ
一尺位ヲ隔テ、巾六寸深サ三寸許リノ雁岐ヲ切り
其ノ次ノ雁岐ヨリ二尺五寸ヲ隔テ、雁岐繩ヲ張リ
テ同様ノ雁岐ヲ作り順次斯クノ如クナス故ニ雁岐
ノ距離ハ一尺九寸トナル譯ナリ而シテ雁岐ノ方向
ハ可成東西ニ設ケルヲ宜シトス

一、肥料ノ施用量
肥料ハ一反歩ニ付左ノ肥料ヲ施スコト
堆肥四百五十貫、魚類粕四斗、鱗酸七貫、土灰
一石乃至一石五斗
(注意)人糞尿ハ常ニ堆肥製造ノ際可成堆肥ニ打チ掛

土入ハ雁岐ノ北側ノ土ヲ取ルコト
(一)二回ノ土入
二回ノ土入ハ初回ノ土入ヨリ廿五日乃至三十日目
ニ於テ八分ノ土入ヲナシ前同様踏ミ付クルコト而
シテ此ノ土入ハ雁岐ノ南側ヨリ土ヲ取ルコト
(二)三回ノ土入
三回ノ土入ハ矢張り二回ノ土入ヨリ二十五日乃至
三十日目ニ一寸ノ土入ヲナス此際ノ土入ハ麥ヨリ
雁岐三寸離レテ深サ三寸ヲ南ニ切り雁岐ノ兩側共
三寸ヅ、ケリ込ミ結局巾一尺二寸ヲ踏ミ付ク此ノ
際ハ足ヲ縦ニツキ合セ踏ミ付クルコト
一、春季ノ手入
(一)初回ノ手入
節分後十五日頃ニ單ニ踏ミ付ク
(二)一回ノ土入
初回ノ踏ミ付ケヨリ十日乃至十五日目ニ一寸ノ土
入ヲナシ踏ミ付ク此時麥ノ上ヲ平坦トスルトキハ
麥ノ穂揃良好ナリ
(二)二回ノ土入
二回ノ土入ハ一回ノ土入ヨリ二十五日乃至三十日

一、種子ノ蒔き方

種子ハ必ズ丁寧ニ雁岐巾(六寸)全体ニ不同ナク
之ヲ蒔キ其上ニ衣肥トシテ右ノ土灰ヲ散布シ其上
ニ二分乃至三分ノ土ヲ草鞋ヲ穿テ横歩ニ踏ミ付ク
ルコト而シテ土ヲ覆フ器具ハ土掛ケ鋤籠ヲ以テス
ルトキハ其作業容易ナリ

一、冬季ノ手入

(一)初回ノ土入

初回ノ土入ハ種蒔キ後二十五日乃至三十日目ニ六
分ノ土入ヲナシ同時ニ踏ミ付クルコト而シテ此ノ

目ニ一寸ノ土ヲ入レ麥ヲ兩側ニ踏ミ分ケ置クコト
 (一)三回ノ土入
 三回ノ土入ハ二回ノ土入後三十日目頃ニ三寸土入
 ヲナス(此ノ際ハ踏ミ付クベカラズ)
 故ニ前終ノ土入ハ麥ノ兩側全部ノ土ヲアル限リ之
 ヲ篩ヒ掛ケ結局畦ヲ半圓形トナス(此ノ作業ハ必
 ス彼岸中ニ行フコト)
 右栽培方法ハ大麥五石五斗裸麥四石五斗收穫ノ程度ト
 考フベシ

豊浦郡彦島村

山口縣ノ西南端ニアル一小島ニシテ戸數千四百戸ヲ有
 ス村長ヲ植田謙輔トイヒ助役ヲ富田恒祐ト稱ス視察當
 時村長ハ辭表提出中ニテ對面ヲ得ズ富田助役ニツキ村
 内ノ模様ヲ質ス
 村役場ハ本館ノミニ壹萬五千餘圓ヲ費シ石門、鐵柵及
 記録倉庫等ヲ合スレバ貳萬數千圓ヲ費シタリト一見銀
 行カ會社ノ建物カト思ハシムレド屋上⊙ヲ表スヲ以テ
 之レコソ村役場ダナト合点セシム玄關ヲ入レバ土間ニ
 シテ左ニ受付庶務係アリ右ニ收入役勸業係アリ尙與ノ

左方ニ助役室右方ニ村長室アリテ村長室ノ隣室ヲ應接
 室トス各係共村民ニ接スル境界ニ高サ四尺許ノ所迄板
 圍ヒトシ一尺余巾ノ台ヲ設ケ台上高サ一尺余ノ小鐵柵
 ヲ廻ラシ係員ト村民ノ應接スベキ個所ニ巾五寸高サ八
 寸位ノ穴ヲ穿ツ台下ヲ記録箱ニ代用シ日々必要ノ書類
 ノミヲ納ムルコト、セリ階上ヲ議事堂及議員控室區長
 控室傍聽席等ニ充ツ記録倉庫ハ事務室ノ後口ニ位シ煉
 瓦ヲ以テ組立テ二階造リトシ記録類整然ト納メアリ記
 録ハ毎月五ノ日ニ各係ニ於テ整理ス
 本村ハ下關ニ接シ出入瀬煩ナル爲戸口實査簿ナルモノ
 ヲ設ケ書記ヲシテ擔當ヲ定メ毎日余暇アル毎ニ調査セ
 シム
 納稅方法トシテ納期一覽表ヲ厚紙ニテ作り柱ニ掛ケル
 様ナシ各戸ニ配付シ置キ尙納期五日目前ニ各區ニ納稅報
 知旗ヲ立テ期日ノ切迫セルヲ知ラシメ又一方各區ニ納
 稅組合ヲ組織セシメ村費ヲ以テ村長指定ノ期日迄ニ納
 付セシ組合ニ對シ稅額千分ノ五ノ獎勵金ヲ下附スルコ
 ト、セリ其結果現今ニテハ殆ンド滞納者ナキニ至レリ
 トイフ

下關市彦島村間ノ渡船賃ハ本村收入中使用料及手数料
 ト相對シ主ナルモノトス數年前迄ハ本事業ヲ請負ニ附
 シ居タルモ現今ハ村經營ノ事業トナス其結果一ケ年ノ
 收入六千圓ニシテ之ニ要スル渡船費用四千圓ヲ差引キ
 純益二千餘圓ナリト本村農會ハ基本財産ヨリ生スル收
 入ヲ以テ農會ノ經費ヲ支辨スル爲會員經費負擔額ノ外
 特ニ明治四十二年度ヨリ向フ十ケ年間毎年春秋二期收
 穫ノ期節ニ於テ農會員一戸ニ付春季ハ麥一舛秋季ハ米
 一舛宛ヲ徵收シ時期ヲ見計ヒ賣却シタル金及毎年蔬菜
 品評會ヲ舉行シ其出品物ノ賣却代ヲ銀行預金トナシ居
 レリ

小學校ハ本役場ノ後方高燥ノ地ニ在リ海ヲ隔テ北方ニ
 下關東方ニ門司大里ト相對シ眼下ニ有名ナル岩流島ヲ
 見ル校長ヲ松木彦次郎ト稱ス本校舍新築ニハ五萬餘圓
 ヲ費シ貳萬餘圓ヲ村費ヨリ殘金參萬圓寄附金ヲ募集セ
 シニ立所ニ應募者アリ一ケ年内ニ全部ヲ收金セシト云
 フ校舍内外ノ設備ヨリ整ヒ教辦及運動器具等亦ヨク備
 ハル殊ニ感ヲ深カ、ラシメシハ針ノ製造方法ヲ順次ニ
 表ハシタル標本ナリ針ハ何人モ日常用フル所ノモノナ
 ルガ之ヲ製スル順序ハト問フ時完全ニ答フルモノ果シ

テ幾人カアル斯ク云フ小生モ本校ヲ參觀シ始メテ知ル
 ラ得タルナリ時恰モ山口師範學校ニ於テ教育品展覽會
 開催ノ時ナリケレバ著シキモノハ出品中ニテ觀ルヲ得
 ザリシハ遺憾ナリキ、各教室正面ニハ故乃木將軍ノ寫
 眞ヲ掲ゲ階上ノ講堂正面及雨中体操場兼控室ニモ之ヲ
 掲ゲ運動場及道路ヨリ正門ニ至ル間ニハ高サ一尺許リ
 ナル木標ヲ立ツ而シテ間ヲ表ス木標ハ白色ニメートル
 ヲ表ス木標ハ赤色ニ塗リ直觀教授ノ材料トナシ居レリ

彦島村徽章設定規程

第一條 當村徽章左記ノ通り設定ス

說明

本圖ハ彦島村ノ頭字彦ヲ片假名ノ二字ニテ圖
 形ニ組合セ村内圓滿ニシテ和合一致セルヲ示
 シタルモノナリ

福岡縣築上郡黒土村

門司驛ヨリ大分線ニ乘シ宇島驛ニ下車シ宇島鐵道ニ乘
 リ替フレバ十分餘ニシテ黒土村ニ着ス昨日贅ヲ盡シタ
 ル彦島村役場ヲ見タル眼ニハ本村役場ノ餘リニ汚隘ナ



ルニ驚ケリ外柵破レ壁落チ床上何時帯ヲ入レタルモノトモ思ハレズ刺ヲ通シテ事務室ニ入ル又數人ノ腰掛クル餘地ナシ村長ヲ矢幡小太郎トイヒ明治十七年ヲ以テ戸長トナリ町村制ノ實施ト共ニ村長ニ舉ケラレ現今ニ至ル氏又質朴ニシテ外觀ヲ街ハス手ニセル煙草入ハ所々綻ビテ煙草漏リ煙管ハ十數年來氏ノ唯一ノ武器トシテ火鉢ト戰シモノ、如シ之ノ一事ヲ以テ見ルモ如何ニ淳朴ノ人ナルカヲ知ルニ足ル斯カル村長ヲ教師ト戴ク村民亦淳朴儉素ニシテ業ニ勵ミ農事ノ餘暇七島表吠等ノ製作ニ從事ス其年額一萬二千餘圓七島表七千餘圓ニ達ス

村民ノ智徳ヲ進メ風俗ヲ改善シ品性アル生産的國民ヲ養成スル目的ヲ以テ社會教育ナルモノヲ組織ス分チテ戸主會ハ本村住民ノ戸主ヲ以テ組織シ毎年一回以上開會左ノ事業ヲ舉行ス

- 一、村是ノ精神的實行ノ研究
- 二、本村生産業發達上ノ研究
- 三、普通教育及社會教育發達上ノ研究
- 四、本村公共事業發達上ノ研究

- 五、本村ノ平和的美風發達上ノ研究婦人會ハ本村ノ主婦ヲ以テ組織シ毎年三回以上開會左ノ事業ヲ舉行ス
 - 一、家庭教育上必要ナル講話
 - 二、婦人ニ適切ナル事業ノ研究及講話
 - 三、家庭經濟並ニ一家整理上ノ研究
 - 四、公共的慈善事業ノ研究
 - 五、善行表旌

青年會ハ本村住民滿十四歲以上三十歲以下ノ男子ヲ以テ組織シ左ノ事業ヲ舉行ス

- 一、教育勸語ノ御趣旨ノ貫徹ヲ企圖スルコト
- 二、補習教育
- 三、壯丁教育
- 四、農事講習會
- 五、体育獎勵
- 六、其他青年ニ必要ナル事業

同窓會ハ黒土尋常小學校卒業生ヲ以テ組織シ毎年一回開會シテ左ノ事項ヲ舉行ス

- 一、會員相互ノ知識ヲ交換シ舊情ノ親善ヲ圖ルコト
- 二、本村教育ノ發展隆盛ヲ企圖スルコト

全村懇和會ハ毎年一回全村住民老幼男女ヲ問ハズ左ノ事項ニヨリ一同會同シ以テ一村ノ平和親善ヲ圖ルコト

- 一、黒土尋常小學校大運動會ヲ期シ毎年一回村民一堂トナリテ和樂親善ヲ以テ本村平和的習慣ヲ永遠ニ持續シ本村民ノ人格養成ヲ期スルコト
- 二、本村發達上ノ研究

而シテ之等諸會ニ要スル經費ハ専ラ社會教育基金ノ利子ヲ以テ支辨シツ、アリ

納稅成績ハ頗ル良好ニシテ現今ハ聊カモ納稅ヲ滯納スルモノナク必ズ期限迄ニハ村收入役ノ手許ニ納ムト云フ記録ノ整理ハ村長自ラ其任ニ當リ前年分ヲ翌年ノ初メニ於テ必ズ編綴シ而シテ特別ノモノヲ除ク外年々簿冊ヲ改ムルコトヲナサズ前年分ヘ追加ス依テ箇ハ年度ニヨラズシテ種別ニヨリ分チアレバ總テ一目瞭然記録ヲ求ムルニ見當ラズトテ苦シム等ノコトナシ又年々ノ統計書類ニハ殊ニ意ヲ用ヒ之ヲ整理シ尙聊カタリトモ統計ノ材料トモナルモノハ確實ニ保管セリ又他ニ統計臺帳ヲ設ケ町村制實施以來ノ分ニツキテハ之ガ累年ノ比較ヲナシ以テ其狀態ヲ明ニシアリ記録ノ表紙ハ反故ノ張リタルモノヲ用ヒ白紙ヲ用ヒタルモノヲ見ス

勸業主任ハ農會書記之ヲ兼テ勸業ノ仕事ハ殆ント農會ニ引受ク殊ニ肥料ニ重キヲ置キ肥料講習會ノ開設堆肥小屋ノ改善肥料ノ共同購入又ハ肥料ノ配合表ヲ製シ農家一般ニ配付シ配合施肥ヲシテ最モ有効ナラシメンコトニ努ム

村ニ郷社一字、村社七宇、無格社一字アリ祭祀區々ニシテ村治ノ統一上不便ヲ感ゼシムルニヨリ明治四十二年合併ヲ斷行シ一村一社トナス是ニ於テ神社ハ恰モ一村ノ中心トナリ村民ヲシテ敬神ノ念ヲ厚フセシメタルニヨリ元旦及祝日ニハ小學校兒童並公職ヲ帶フルモノヲシテ一同參拜セシムルコトトシ又神前ニ於テ年中行事ヲ議シ入營除隊ノ際ハ必ス神前ニ詣テ小學校兒童公職ヲ帶フルモノ及入退營者ノ部落民ヲ參列セシメ壯重ナル奉告式ヲ行フコト、ナレリ

村ニハ條例、規則ノ類甚ダ少シ之レ不言實行ヲ旨トスル村長ノ主義ナリ生等大ニ鑑ムベキコト、モナリ

本村助役ハ名譽職ニシテ一ケ年ヲ通ジ數日ノ出勤ニ過キズ依テ報酬モ亦一ケ年ノ豫算拾圓ナリト

大正三年度本村ノ郡費負擔ハ二千二百七十二圓ニシテ昨年度ニ比シ貳百五拾七圓ヲ増加ス之ノ郡營事業トシ

●傳染病豫防ニ關スル談話會

五月十四日明木村西來寺(聽衆約二百人)ニ於テ全月十八日福川村大字福井上東雲寺(聽衆約二百人)ニ於テ全月十九日福川村大字福井下專正寺(聽衆約六百)ニ於テ各該村ノ發起ニテ傳染病豫防ニ關スル談話會ヲ開催シ萩警察署長警察醫郡書記村醫等出席交互講演ヲ爲シ聽衆ニ尠カラザル感動ヲ與ヘタリ

兵 事

●海軍志願者身体檢査成績

本年四月二日三日兩日間阿武郡議事堂ニ於テ本年度徵募海軍志願兵志願者身体檢査施行セラル其成績左表ノ如シ

種目	志願者數	合格者數	採用者氏名
町村名	四	三	服部 一郎
萩	一	一	國守 彦藏
椿郷東分	三	一	田萬崎
山田	三	一	宇田郷
合計	七六	四八	

稍人意ヲ強フスルニ足ル而シテ青年補習教育ノ徹底セルト否トハ壯丁ノ態度乃至精神狀態ニ影響スル所實ニ尠少ナラザルモアリ就中山田村ノ壯丁ハ動作ノ敏捷活潑ニシテ應答ノ明確ニ且誠實ナルヲ以テ徵兵官ノ推獎ヲ博セリ當日司令官ノ訓示ハ一般ノ參考トナルヘキ点少ナカラザルヲ以テ其ノ要項ヲ掲グ

●本郡徵兵檢査成績

本年四月廿日全廿一日地福村徵兵署ニ全廿三日全廿四日須佐村徵兵署ニ全廿六日ヨリ全卅日マテ萩町徵兵署ニ於テ本年徵兵檢査ヲ施行シ五月二日抽籤行ハル開署中ハ毎日受驗ノ壯丁ニ對シ檢査ニ關スル必要ナル心得ヲ係員ヨリ注意シ檢査了レバ司令官ヨリ兵役及入營ニ關スル事項ヲ訓示セラレタリ本年檢査ノ成績ハ別表ノ通りナルガ壯丁ノ進退動作年ヲ追フテ進歩ノ蹟アルハ

大正三年阿武郡徵兵檢査一般成績
一、體格成績表(百分比例)

年次別	區分				
	檢丁人員	甲	第二乙	第二乙	丙
明治四十五年	九八九	四五、二九八	一八、四〇二	一二、八四一	一六、七八五
大正二年	八三八	三七、五九一	一九、九二八	一七、六六一	一八、八五四
大正三年	八九八	五八、七九七	六、九〇四	一一、八〇四	一六、二五八
備考	甲種各格者五二八名中五尺二寸未滿者八一八五名ナリ				

戊

〇、七〇六
一、〇七四
〇、五五七

二、甲種合格者体重比較表

身長	年次	明治四十五年	大正二年	二ヶ年平均	大正三年
五尺〇寸		一三、一五八	一三、四〇九	一三、二八四	一三、二〇一
五尺一寸		一三、七八二	一三、九二一	一三、八五二	一三、九四七
五尺二寸		一四、一六〇	一四、一五八	一四、一五九	一四、四八六
五尺三寸		一四、七九七	一四、五七二	一四、六八五	一四、七三四
五尺四寸		一五、三九八	一五、二三六	一五、三一七	一五、三二九
五尺五寸		一六、〇一五	一五、六五一	一五、八三三	一六、〇二六
五尺六寸		一六、九〇三	一六、〇九五	一六、四九九	一六、五一二
五尺七寸		一八、一二〇	一六、九五九	一七、五四〇	一六、四三三

三、体重比較表(聯隊區平均ハ自明治四十二年至大正二年)

身長	聯隊區	山口	阿武郡
五尺六寸	以上	一五、八〇二	一六、一五一
五尺五寸以上	六寸未滿	一五、二〇八	一五、六〇四
五尺四寸以上	五寸未滿	一四、八〇三	一四、〇三八
五尺三寸以上	四寸未滿	一四、三〇四	一四、四一四
五尺二寸以上	三寸未滿	一三、七〇一	一四、一八二
五尺一寸以上	二寸未滿	一三、三四七	一三、七〇二
五尺	一寸未滿	一二、八四七	一二、八四三
以上			

四、身長比例表

身長	檢丁人員	計
五尺以下	八九八	八九
五尺以上	九四	一六八
五尺一寸		一八八
五尺二寸		一七三
五尺三寸		一〇三
五尺四寸		五四
五尺五寸		五
五尺六寸		四
五尺七寸		五
以上		

備考 表外測尺不能者二名

五、トラホーム及花柳病

年次	壯丁人員		トラホーム		花柳病	
	實數	百分比例	實數	百分比例	實數	百分比例
明治四十五年	九八九	八、七七〇	八七	九、六四〇	三〇	三、〇二四
大正二年	八三八	七、一五一	六〇	一一、七一九	二二	二、七四一
大正三年	八九八	五、九六六	五四	二二、〇三〇	二五	二、七六二
山口聯隊區平均			九	一一、七一九	一	一、八四二
第五師管平均						二、六六九
全國平均						二、五六六

◎大正三年阿武郡徵兵検査

(34)

町村名	種目	本年適齡者	前年假決者	本郡受檢者	甲種	乙第一種	乙第二種	丙種	丁種	戊種	受檢者ニ對スル甲事事故不受寄留地受檢者	種百分比
萩	種目	一七	一	一〇七	五四	六	九	二〇	五	三	一四二	五六、四七
椿郷東分	種目	八〇	一	六四	三六	七	一	〇	五	一	五二	六二、五〇
山田	種目	四八	一	二四	一五	三	一	五	二	一	一九	五七、八九
三見	種目	二四	一	三八	二二	二	八	四	一	一	三〇	六三、一六
明木	種目	三九	一	二四	二四	三	四	四	一	一	二五	六一、五〇
佐々並	種目	三三	一	二九	一五	一	四	四	三	一	八	五一、七二
川上	種目	一八	一	二六	一五	一	四	四	二	一	〇	五七、六九
篠生	種目	二四	一	一八	〇	四	一	四	一	一	六	五五、五六
生雲	種目	七九	一	二五	一四	一	一	七	二	一	一一	五六、〇〇
地福	種目	四七	一	二七	一九	一	一	六	一	一	八	七〇、三七
徳佐	種目	三三	一	三二	二二	二	一	五	三	一	一	六八、七五

(35)

町村名	種目	本年適齡者	前年假決者	本郡受檢者	甲種	乙第一種	乙第二種	丙種	丁種	戊種	受檢者ニ對スル甲事事故不受寄留地受檢者	種百分比
嘉年	種目	一三	一	一一	八	一	一	二	一	一	一	六六、六七
高俣	種目	二九	一	二四	一四	二	一	四	二	一	四	五八、三三
吉部	種目	〇六	一	二七	一九	二	七	九	三	一	〇	五一、八五
福川	種目	五五	一	四〇	一六	一	三	四	一	一	六	四七、五〇
紫福	種目	一六	一	三一	一九	一	五	四	二	一	六	六一、二九
大井	種目	三五	一	三三	一七	一	四	四	一	一	五	五〇、〇〇
奈古	種目	三九	一	三三	一七	一	三	四	一	一	八	七三、九一
宇田郷	種目	二五	一	二二	一五	一	二	三	一	一	三	六八、一八
福賀	種目	一一	一	四一	二六	一	四	二	三	一	二	六三、四一
須佐	種目	一一	一	二二	一五	一	七	二	三	一	一六	六五、二二
彌富	種目	三三	一	三三	一四	三	一	四	一	一	三	四〇、〇〇
小川	種目	六三	一	三五	一四	三	五	二	二	一	八	七六、六七
田萬崎	種目	九六	一	三〇	二三	一	二	二	二	一	一	六五、〇〇
六島	種目	七五	一	二〇	二三	一	二	二	一	一	一	六五、〇〇
見島	種目	一三	一	二三	二二	三	一	二	一	一	四	五二、一七

合計

一、〇三八

三四四 八六二五〇三

六三

九九一四四

四九

四

五八三五

三九三

一二七

●徵兵検査受檢者ニ對スル小野田山口聯隊區司令官口演要旨

一、諸君ハ茲ニ丁年ニ達シ目出度徵兵検査ヲ受ラレシニ就テハ實ニ祝着之至ナリ特ニ甲種合格者ニ對シテハ滿腔ノ祝意ヲ表ス抑々兵役及納税ハ日本臣民ノ二大義務ナルコトハ炳トシテ憲法ニ明示セラル、所又堂々タル男子ノ特權ナリト謂ツ可シ即チ諸君ハ男子中ノ男子一粒撰リノ男子タルコトヲ保証セラレタルニ外ナラズ豈祝セスシテ可ナラシヤ

二、却説テ諸君ハ日出度合格セラレタリ就テハ其一大名譽タル兵役ノ義務ヲ果サンニハ如何ナル覺悟ヲ有セラル、ヤ

申ス迄モナク先ヅ第一着ニ我身體ハ十七年四ヶ月間早ヤ國家ニ捧ゲタルモノト覺悟シ一層衛生ヲ重シ無病息災毫モ故障ナク入營スルコト是レ第一ノ覺悟ニアラズヤ是レガ爲ニハ猶左ノ諸件ニ注意セラル、ヲ要ス

一、入營スル迄ハ各自其職業ニ精勵スルハ勿論能ク家事ヲ整理シ置キ而シテ入營後ハ一切家事ヲ思ハズ専心軍務ニ従事セラル、様爲シ置キ又身體ヲ大切ニシ殊ニ不品行ヨリ來ル花柳病不潔ヨリ傳染スルトラホーム等ニハ決シテ罹ラザル如ク注意スル事

一、出發前名ヲ留送別會ニ假リ酒宴ヲ催シ或ハ旗幟ヲ林立シ以テ貴重ノ時間ト財貨ヲ浪費スルガ如キコトアル可ラズ殊ニ此弊風ハ延イテ滿期ノ際ニ至リ土産物ヲ要スル原因トナレバ未入營前ヨリ遠ク將來ヲ慮リ此ノ如キ虛榮虛飾ハ斷ジテ廢止セザル可ラズ若シ留送別會ヲ行フコト必要ナレバ出發前氏神ニ參詣シ町村長、分會長、有志者及同朋友人ノ參列ヲ請ヒ誠心誠意奉公ヲ神前ニ誓ヒ神酒ヲ戴キ以テ留送別ノ驗トスルコトハ良好ナル方法ト信ズ

一、入營ニ際シテハ集合時刻ニ遅レ或ハ集合地ヲ

誤ル等ノコトアル可ラズ又、現役兵證書、實印等ヲ携行スルコトヲ忘ル可ラズ

一、入營後ノ起居動作及古兵トノ關係等ニ就キ懸念サル、方アランモ今日ノ軍隊ニ在ツテハ決シテ斯カル心配ハ無用ナリ殊ニ古兵ガ虐待スルト云フガ如キハ決シテ有ル間敷キ事ナリ萬一不都合ノ者アリシトキハ其父兄ヨリ遠慮ナク所屬中隊長ナリ又ハ聯隊區司令官ニ申シ出ラレ度シ但シ諸規定ノ嚴肅ナルハ是レ即チ軍隊タル所以ニシテ入營當座或ハ窮屈ニ感ズル方アランモ是レ自身ノ修業ナレバ飽迄忍耐セザル可カラズ

一、入營後ハ大小被服ヨリ手入具、石鹼、針糸類ニ至ルマデ支給ヲ受ケ又食事ハ相當ノ營養價ヲ有スル食餌ヲ供セラレ且ツ毎月壹圓五拾六錢ヅ、ノ小遣金ヲ支給セラル、ヲ以テ質素儉約ヲ旨トセバ決シテ父兄ニ送金ヲ要求スルガ如キ必要ナカル可シ從ツテ自家富豪トノ故ヲ以テ送金スルガ如キコトアラバ是レ質素ノ趣旨ニ戻リ又困苦缺乏ニ耐ユルト云フ點ヨリ論ズルモ不可ナルノミナラズ漸次懦弱不品行ニ陥リ遂ニ其身ヲ毒スルニ至ル可シ

一、其他細部ニ就テハ在郷軍人分會長ニ依頼シアレバ該分會役員ニ就キ詳細承知セラル、ヲ要ス

以上要スルニ諸君ハ日出度入營シ入營後ハ一向ヲ軍務ニ精勵シテ良兵トナリ嚙テ滿期歸郷後ハ其職業ニ精勵スルノ良民トナルノ一、大覺悟ヲ要ス斯テコソ諸君ハ始メテ一人前ノ國民トナリ又臣民タルノ義務ヲ完全ニ盡シタルモノト稱ス可キナリ

三、次ニ乙種合格者諸君ハ甲種合格者不足ニ際シ服スルコトアルモ其多クハ補充兵役(十二年四ヶ月)ニ服シ從テ特種ノ者ノ外ハ非常若クハ戰時ノ場合ニアラザレバ召集セラレザルナリ故ニ諸君ハ其同朋竹馬ノ友ガ現役ニ服シアルコトヲ回顧シ一生懸命ニ其ノ職業ニ精勵シ又一方ニ於テハ身體ヲ大切ニシ一旦緩急アラバ奮テ國難ニ赴ク如ク常ニ覺悟セラレンコトヲ希望ス

序ニ一言シ置ク可キハ補充兵役者中假令ヒ未教育ノ者ト雖服役上ニ關スル手續即チ寄留、旅行屆等ハ既教育ノ在郷軍人ト同様ニ取扱ハル、モノトス從テ之ニ違犯シタルモノハ相當ノ處罰ヲ受ケザル可ラザルコト是レナリ

四、次ニ丙種合格者ハ國民兵召集ノ時ニアラザレバ召集セラレズ又丁種ハ不合格者ニシテ全ク兵役ニ服セザルモノトス依テ此等ノ諸君ハ一層各自ノ職業ニ精勵シ以テ間接ニ其義務ヲ盡スヲ要ス諸君ハ能ク精勵シ能ク勤儉貯蓄シテ一ニハ「國家ノ爲」公共ノ爲」トノ觀念ヲ以テ從事シ而シテ諸君ガ同朋友人中現役ニ就クニ方リ之ニ同情シ之ニ後援ヲ與ヘラレンコトヲ熟望ス實ニ彼等ノ留守宅中或ハ飢寒ヲ感ズルモノアルヤモ計リ難シ彼等ヲシテ後顧ノ患ナク専心軍務ニ從事セシムルト否トハ一ニ懸ツテ諸君ノ雙肩ニ在リ

五、次ニ戊種トナリタル諸君ハ一層攝生ヲ重ンジ速ニ病氣ヲ快復シ來年度ニ於テハ無病健全ノ身ヲ以テ検査ヲ受ケラレンコトヲ希望ス

六、以上概言セバ甲種合格者並ニ第一乙種ノ一部ハ益々身體ヲ健全ニシ無事入營ヲ期セラルベク其他ノ諸君ハ單ニ自己ノ計ノミヲ成サズ國家ノ爲ニ精勵刻苦シ其ノ剩シ得タル所ヲ以テ公共ノ爲ニ盡力シ或ハ現役者ニ同情シ之ヲ後援セザル可カラズ斯クテコソ護國ノ任務ヲ均等ニ負擔シ國民皆兵ノ實ヲ

モ受ケ得ルモノト心得フル者アリ誤解ヲ解キ置カレタシ
入營兵ハ本年度ヨリ午前八時ニ交付スルコトニ改正セラレタルヲ以テ豫メ御承知置テ請フ
左記ノ件ハ各官ノ己ニ承知セラレ又夫々通達セラレアルコトナルモ未ダ其結果ノ件ハザルモノアルヲ以テ御參考迄ニ重テ申述フ

- 1、在郷下士卒中ノ善行者ニシテ郷黨ノ模範タルヘキ者ハ其行爲ノ主要事項ヲ記シ在郷軍人分會長若クハ町村長ヨリ之ヲ現役中ノ所屬隊長ニ通報スルコト
- 2、在郷軍人分會長ヨリ入營者ヘノ通信ハ中隊長ヲ經由スルコト
- 3、入營ノ爲特ニ衣服ヲ新調スルモノ漸次増加スルノ傾向アリ御注意ヲ要ス
- 4、經費ノ關係上強ユルコト能ハザルモ入營ノ際ハ可成父兄若クハ親族ノ者一名附添ヒ來ルコト
- 5、印ヲ今尙携帯セサルモノアリ亦多額ノ金員ヲ持參スルモノアリ御注意ノコト
- 6、壯丁身上調査表ハ年々良好ノ結果ヲ示シ各隊ニ於

〇〇〇〇〇〇
舉ゲ得ベキナリ
記セヨ諸君國民皆兵トハ軍事教育ヲ受ケタル少數ノ軍人ノミニ非ラザルコトヲ

●抽籤日ニ際シ各町村長ニ對スル小野田山口聯隊區司令官口演要旨
諸務御多忙ノ際ナルニ拘ハラヌ熱心ナル諸官ノ御配慮ニ依リ年中行事ノ一大事務タル徵兵検査ヲ無事終了シタルニ就テハ茲ニ諸官ノ御辛勞ヲ謝ス本年徵兵検査ノ成績ニ就テハ別表ノ如シ猶此機ヲ利用シ過般其筋ヨリ注意セラレタル事項中諸官ノ御注意ニ待ツヘキモノ二三ヲ左ニ陳述セントス

令第二十二條該當者ノ調査ニ就テハ從來屢々注意セラレタル所ナリ而シテ其人員モ漸次増加スルノ傾アリ爾來一層注意セラレタシ
陸軍官憲ニ差出スヘキ願届書ニ添付スベキ診斷書ハ最寄ノ陸軍軍隊及病院ニ申出ツレハ之ヲ受領シ得ヘキ達ヲ誤解シ無料ニテ診斷ヲ受ケ若クハ診斷ト共ニ投藥ヲ

テモ教育上多大ノ便益ヲ得ツ、アリ
尙左記ノ件不十分ナルモノアリ關係主任者ヘ注意シ置カレタシ
一、履歷欄ニ學校卒業後ヨリ入營迄ノ履歷ヲ詳細ニ記入スルコト
二、家庭ノ狀況ヲ具體的ニ記述スルコト
三、壯丁名簿ト身上調査表トニ記載セル職業相違セルモノアリ又壯丁名簿ト戶籍抄本ト一致セサルモノアリ例ヘハ名簿ニ某長男トアルニ抄本ニハ某三男トアルカ如キ之ナリ又壯丁名簿ニ刑罰ノ記入漏レ多シ特ニ御注意ヲ要ス

- 7、壯丁名簿ト身上調査表トニ記載セル職業相違セルモノアリ又壯丁名簿ト戶籍抄本ト一致セサルモノアリ例ヘハ名簿ニ某長男トアルニ抄本ニハ某三男トアルカ如キ之ナリ又壯丁名簿ニ刑罰ノ記入漏レ多シ特ニ御注意ヲ要ス
- 8、戶籍抄本ノ姓名ノ文字ヲ正確ニ記載スル様御注意アリタシ
- 9、各官又ハ附添人ニシテ下士又ハ二年兵ニ面會セントスル者ハ入營兵交付前若クハ交付終了後ニ於テスル様御注意ヲ要ス
- 10、附添人ハ晝食ヲ携帯スルコト
但酒肴ヲ携帯スルヲ禁スルコト
- 11、附添人ナキ者ニシテ和服梱包材料ヲ所持セサルモノアリ持參スル様注意シ置カレンコトヲ望ム

●時間の厲行に就て

時間勵行ハ社會改善ノ第一歩ナリ萬人其ノ實行ヲ痛切ニ感ジテ而モ行ハレザルモノハ時間ナリ秋時間山口時間等時間ノ上ニ地名ヲ冠シタルモノハ悉ク不正確ナル時間ヲ意味スルモノニシテ日本全國到處此ノ例ニ漏レザルモノナキガ如シコレ全ク時ハ金ナリト謂フ事業的生活ヲ營マザルト自己本位ニシテ公共的精神ノ缺乏ト謂ハレヨリハ寧萌芽セザルニ基因スルナルベシ苟モ社會ノ上流ニ立テテ風教ノ改善ヲ以テ自任スルモノハ卒先範ヲ示シ規程的集合ノ快味ヲ味ハシムルニ努メザルベカラズ多クノ集會ニ於テ其ノ主催者ガ參會者ノ距離家庭ニ於ケル食事時間等ヲ何等顧慮スルコトナク午前八時或ハ午後一時ナド通知シテ午前十時午後三時ヲ希望シ或ハ雜談ニ時ヲ移シテ終了ノ時刻ヲ確守セザル如キハ尤モ慎マザルベカラズ

ニ全縣下ニ於テ之ガ勵行ヲ期スル所アラントス

答申書

- 一、一般社會ニ於ケル時間勵行ヲ促進スル爲メ教育者ノ採ルベキ良法如何
- 右時間勵行ノ必要ハ一般ニ認ムル所ニシテ各地幾多ノ條例ヲ設ケ規約ヲ結ベルヲ見レドモ其ノ實行ノ之ニ伴ハザルモノ、多キハ實ニ慨スルニ堪ヘタリ之ヲシテ實行セシムベク我が教育者ノ取ルベキ方法ハ凡ソ左ノ數項ナルベシ
- 一、學校ニ於ケル儀式會合ハ參列者ノ有無ニ顧慮ナク定刻執行スルコト
- 一、學校長教員ノ關係スル青年會其ノ他ノ諸會及ビ關係ナキ諸會合ニ於テモ率先指導スルコト
- 一、校長教員ハ公會ノミナラズ私ニ行フベキ慶吊會ニ於テ地方ノ習慣ニ拘ハラズ嚴然トシテ勵行シ他ヲ感化スル覺悟アルベキコト
- 一、各地ノ情況ニ適應スル集合心得ヲ調査シテ其地民ニ周知セシムルコト
- 一、神官僧侶ノ如キヲシテ相當機會ニ實行ヲ示サシム

書取

- 二、トリ、ドイツ、ユキ

算術科

- 一、貳拾九錢のげた、三ぞくかふときはだいきんいくらか

11、93—87

二、尋常四學年卒業程度(舊令)

國語科

讀方

- 一、マツチハ今ヨリ凡ソ百年前外國ニテ發明セラレシガ、明治八年ヨリ我國ニテモ製造シ今日ニテハ盛ニ外國ニ賣出セリ

書取

- 二、ザイモク、キセン、ニツボンテイコク

算術科

- 一、横二十四間縦十八間ノ畑ハ何段何畝何歩ナルカ
- 二、43417+3111

三、高等科二學年修業程度(舊令)

國語科

讀方

- 一、山には木がしげり、海には魚がそだつ

之ヲ要スルニ學校長教員ハ自ラ率先實行シ先ヅ各地上流人士ノ舊態ヲ一變セシメ以テ一般士民ノ勵行ヲ促進スルヲ以テ惟一ノ良法トス

右調査報告候也
大正三年三月廿七日

縣下各小學校長集會調査委員

●本年壯丁學力試驗問題

- 一、尋常二學年修業程度

國語科

讀方

一、道眞の筑前にあるや、常に門を閉ぢて出でず、嘗て賜はりし御衣をさへぎて君恩のかたじけなきを思ひ、詩を作りて其心を述へたり

二、書取

アイロクシン、キム、クスノキマサシゲ、グンタイ、タマゴ

算術科

一、或人金百六拾八圓ヲ持チシニ其ノ二十四分ノ七ト拾七圓トヲ費シタリ殘金何程ナルカ

二、十五里五町二十四間一尺ノ五分一ヲ問フ

高等科卒業程度

國語科

讀方

一、國に軍隊ありて敵に備へ境を守るなくんば我等は何時までか獨立の國民たるを得へき

二、金次郎はかくの如く、勤勞苦學すれども、休暇にては不毛の地を開墾し、稻苗を植ゑて耕耘に怠らず、初の年に一俵餘の粃を得たり

書取

三、グンヤクシヨ、トヨトミヒデヨシ、ヒバリ、ニ

ハトリ、ヤマトニシキ

算術科

一、金五百貳拾圓ヲ甲十五、乙八、丙三ノ割合ニ分配セバ各何程ナルカ

$$11、4 \frac{2}{12} \times \frac{2}{7} + \frac{9}{14} =$$

試験成績ノ結果ニ就キ之ヲ概評スレバ各學年ヲ通シテ國語科特ニ讀ミ方ニ於テハ比較的ニ成績優良ナルモ漢字書取ニ至リテハ其成績不良ナリ算術科ニ至リテハ其成績特ニ不良ニシテ尋常四學年面積算(農事ニ從事スルモノニシテ一畝三十歩ヲ知ラザルモノ多シ)高等科ノ分數計算等ハ平素練習セサル結果ナリシモ忘却セルモノ頗ル多シ毎年壯丁學力試験ヲ施行スル毎ニ小學校教育ノ効果如何ヲ疑ハサルヲ得ズ小學校教育ニ於テ如何ニ總テノ方面ニ全力ヲ傾注スルモ彼等ガ丁年ニ達シ智識ヲ忘却スル斯クノ如キニ至リテハ國民教育上ニ於ケル一大欠点ト謂ハザルベカラズ刻下ノ國民教育上ニ於テ習學校ノ施設ヲ完成シテ此ノ欠陥ヲ救済スルニアリ左ニ本年度ニ於ケル試験ノ成績ヲ掲ク

阿武郡壯丁學力進學成績比較表

町村名	受驗人員	學力進學歩合	學力進學成績順位		
			大正三年	大正二年	大正元年
町村名	人員	歩合	三年	二年	元年
椿村	二四	六九・九〇	二四	一四	二二
德佐村	三三	七〇・四四	三九	一三	二二
嘉年村	一一	八八・四二	一三	一	二
宇田郷村	二二	六八・五五	四一	二	二
見島	二二	五五・三三	四一	二	二
地福村	二八	六八・五五	一六	二	二
篠生村	二〇	七〇・四四	一七	二	二
小川村	三四	六三・〇〇	一〇	二	二
奈古村	三三	六六・三〇	一四	二	二
佐々並村	三七	六三・〇〇	一四	二	二
須佐村	四二	六五・五五	一八	二	二
村椿郷東分	五八	六〇・〇〇	一八	二	二
山田村	四〇	六五・五五	一七	二	二
彌富村	二二	七五・四八	一七	二	二
福賀村	二〇	六五・五五	一七	二	二
萩町	九三	七五・四八	一七	二	二
六島村	二〇	五五・三三	一五	二	二
田萬崎村	二八	六六・三〇	一四	二	二
川上村	三三	六五・五五	一四	二	二
明木村	二五	六八・〇〇	一三	二	二

學力進學成績順位

學力進學成績順位

備考 成績、學力、点数ハ受験者ノ得点ノ平均点数ナリ進學点数ハ尋常二年二五、尋常四年五〇

福川村	三七	五五、四一	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
大井村	二八	五五、三九	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
紫福村	二五	五五、三〇	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
吉部村	二六	五五、三〇	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二

三見村	三二	五三、八一	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
生雲村	二六	五三、〇一	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
高俣村	二二	五三、〇一	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
合計及平均	八四二	五三、〇一	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二

○郡下各小學校兒童出席歩合

本郡小學校兒童ノ出席歩合ハ全縣ヲ通シテ常ニ最末位ニアルハ郡民ト共ニ頗ル遺憾トスル所ナルガ近時各小學校職員及村當局者ノ銳意熱心事ニ當レルノ結果漸次其ノ歩合ヲ高メツ、アルハ郡下教育上聊カ意ヲ強フスル所ナルモ前途尙遼遠ノ歎ナクンバアラズ而シテ既往ニ於ケル成績ノ向上ハ主トシテ學齡兒童ノ保護會或ハ阿武郡各小學校尋常科兒童出席歩合順位表

學校名	三月	二月	一月	學校名	三月	二月	一月
椿西	九八、六八	一	一	四紫福	九四、七六	二二	一七

福川	九八、六二	二	五	二地福	九四、七二	二四	三〇
惣郷	九八、二八	三	七	一二上小川	九四、六四	二五	二四
生雲	九八、二七	四	二	一一藏目喜	九四、一七	二六	三七
龜山	九七、九〇	五	三	一〇半田	九四、〇二	二七	二七
宇田	九七、七一	六	六	六奈古	九三、九五	二八	二五
越ヶ濱	九七、五八	七	八	八立野	九三、一九	二九	二
明木	九七、二四	八	四	一篠生	九三、一五	三〇	二二
長高	九六、八九	九	一	五嘉年	九二、八一	三一	二九
高瀬	九六、八八	一〇	三	一六吉部	九二、七二	三二	三二
野戸呂	九六、八六	一一	一〇	九彌富	九二、四九	三三	三九
鈴野川	九六、八四	一二	一八	二九白水	九二、三四	三四	二六
福田	九六、七四	一三	一三	一八木間	九二、〇九	三五	三五
徳佐	九六、二六	一四	二〇	二七青英	九二、〇五	三六	四〇
明倫	九六、二三	一五	一四	一三大井	九一、九三	三七	三二
三見	九六、一五	一六	一五	一四川上	九一、一九	三八	三六

持坂	九五、七八	一七	九	七相島	九〇、一六	三九	三三	二三
下小川	九五、七三	一八	二三	篠目	八八、六四	四〇	三八	四〇
佐々並	九五、三四	一九	一六	一五高俣	八四、九四	四一	四一	三九
多磨	九五、一〇	二〇	二八	二六大島	七六、五八	四二	四二	四三
椿東	九五、〇五	二二	一九	二一見島	七五、七一	四三	四三	四二
小川	九四、九六	二二	二二	二八平均	九三、八四	四三	四三	四二

備考 立野校ノ二三位ヨリ廿九位ニ下リタルハ本月麻疹流行ノ結果ナリト

●教員部會

◎東部教員會五月二日三日篠目尋常高等小學校ニ於テ
開催ス事業ノ大要左ノ如シ

第一日 尋常五六學年算術科實地教授 批評會

通俗講話會午後九時開會出席者大多數青年ニシテ
十一時過閉會セリ講演者左ノ如シ

一學校ト家庭トノ聯絡ニ就テ

吉部尋常高等小學校長大和春三氏

一黒土村ニ就テノ所感

德佐尋常高等小學校長河村要一氏
郡視學 淺田五一氏

第二日 各校提出ノ諸問題ノ討議

◎南部教員會五月九日十日野戸呂尋常小學校ニ於テ開
催

第一日 役員……………ノ改選

各學校ニ於ケル國語科及算術科ニ對スル研究發表
時間勵行ニ關シ社會方面ニ對シ研究セラレタル會

員ノ實驗談

第二日 地理研究ノ爲メ生雲村境ナル魚切瀧ノ探險因

ニ同地方民ノ風俗人情ヲ視察スルノ好機ヲ得タレ
バ其一端ヲ記シテ參考ニ供セントス

野戸呂尋常小學校ノ通學區域ハ江舟野戸呂ノ二部落デ
アル、學校ハ野戸呂ニ建テラレテ江舟ヘハ約三十丁ア
ルトノコト、野戸呂ハ戸數六十江舟ハ約四十トカ聞テ
イル、何シロ山一ツデ隔テ、生雲ガ見ヘ、篠生村ヘハ
山路一里ト聞テ如何ニ山奥デアアルカトイフコトモ分ル
川上村ノ人デ野戸呂江舟ヲ知ラス人モ多ク野戸呂江舟
ノ人デ萩ヲ知ラス人モ随分アル話、併シ佐々並山口方
面ニハ反テ交通頻繁ナ様デアアル、藤藏矢櫃ナド羊腸タ
ル坂路ヲ越ヘテ進ム間ハ何時ノ時代ニ又何ノ爲メニ、
コンナ不便ノ地ニ人ガ住ンダモノダラウカナド、自ラ
苦情的質問モ出ル様ナ心地ガスルガ、一旦其ノ地ニ足
ヲ入ル、ヤ否ヤ、燃ユルガ如キ區民ノ熱情ハ、昔ナガ
ラノ純朴ナル風ヲ存シテ、快感ノ胸ニ湧キ出スルヲ禁
シ得ナイデアアル、今度教員部會ガ開カレト聞イタ、
兩區民ノ喜ビハ大方ナラズ、青年會員ハ總出テ、兩區
間ノ道路修繕ヲナシ開會二日間ハ農事繁多ナルノ時ニ

モ拘ラズ、全區臨時休業ヲシテ老若男女歡迎ニ奔走シ
タノデアアル、最初ノ一日ハ閉會後青年會員婦人會員及
區ノ有志ト晚餐會ヲ開キ、第二日ハ青年會員ノ先導テ
魚切瀧ノ探險、青年ハ辨當ヲ運フ者、橋ヲ架クルモノ
耶馬溪以上トモイフベキ隠レタル天下ノ絶景ニ情の趣
味ヲ添ヘテ、更ニ一段ノ光彩ヲ放ツ感シカシタ
民度ハ一般ニ豊カナ方テ、餘リ貧富ノ懸隔カナイ、言
語ハ快活明瞭テ態度頗ル敏活テ、何トナク小薩張リシ
タ所ハ一寸田舎テ見ラレヌ圖デアアル、青年ニ煙草ヲ吸フ
モノカ見當ラナカツタカ卷烟草ヲ吸フモノカ一人モナ
イトハ翁ノ自慢デアアル、酒ナドモ多ク飲マヌ様子、私
ハ薩張リ用キマセストイフ青年カ随分多イ、此處ハ學
校萬能主義テ、學校ノ事トイッタラ、婆サン達マテ出
テ心配スル、第一日ノ晩ハ部會員ハ二人宛分宿シタノ
ハ、是非私ノ方ヘモトイフ希望マテ出タトノコト、
先生カ夜學ニ出タリ日曜ナドニ散步ニ出タ留守ニハ風
呂カ沸シテアル漬物ノ用意マテシテ御飯カ食ラレル様
ニシテアルカ誰レカシテ吳レタノカ分ラヌ、住宅モ立
派ニ出來テ、運動機械ハ區ノ寄附テ全部出來上ツテキ
ル、藤本校長赴任ノ當時ハ八名ノ連月欠席者カアツタ

カ、近所カラ御辨當マテ作ツテ欠席サセヌ様ニ心配シテ吳レ、今ハ一人ノ連月欠席者カナクナツタトノコト、學校ノ事ハ九テ自分ノ事ヲスル様ニ思ツテ居ル様ニ見エ、青年會婦人會ナレド餘程規律的ニ行ハレ、近來ハ老人連カ校長ニ迫ツテ老人會ヲ設ケントシテキル、眞ニ區内カ一家ノ様ナ感カシタ

●北部教員會 五月十六日十七日彌富尋常高等小學校ニ於テ開催

第一日 役員ノ改選 實地授業尋常六學年体操 批評會

第二日 來會ニ於ケル事業ノ打合(動植物講習、同學年會)

協議題 數回ニ就テ 研究發表 勤勞主義實施方法(下小川校) 話方研究(宇田校)

●椿郷東分村字浦小畑青年會發會式

五月十九日浦小畑青年會發開式ヲ舉行セリ當地ハ漁民多ク出稼スルモノ多キ爲メ青年會ヲ組織スルニ頗ル困難ナル模様ナリシカニ三有志發起トナリ斡旋ノ結果當日午後二時ヨリ發會式ヲ舉グルニ至レリ是ヨリ先キ區

民ノ休暇ヲ見計ヒ一日共同漁業ニ從事シ當日風波激シキニモ係ラス貳百參拾餘圓ヲ得タレバ内百參拾圓ハ椿東信用組合ニ基金トシテ預入レ残り百圓ヲ以テ當日ノ諸雜費ニ充テタリ發會式ノ當日ハ會員二百三十餘名永照寺ニ參集シ村長校長其ノ他村ノ有志十數名之ニ參列シテ祝詞並ニ將來ニ對スル希望ヲ述ヘタリ特ニ三見尋常高等小學校訓導山中貞七氏ノ孝子留吉ノ話ハ會員ニ多大ノ感動ヲ與ヘタリ因ニ本會ハ毎年一二回共同漁業ニ從事シテ基金ノ増殖ヲ計ル方針ナリト

産業

●共同採種組合設置獎勵

稻種改良ニ對シ左ノ目的ヲ達センガタメ五月二日ヨリ同月十五日迄ノ間ニ於テ吏員ヲ派シ各村ニ亘リ區長ヲ集メ本秋ヨリ實行スヘク勸誘ヲナシタリ
一、米質善良收穫多量性ノ種子ヲ得ル
米種ノ改良ニハ品種ノ上進ヲ計ルト收穫ノ多量ヲ期スルトノ二様ノ意味ヲ含有スレトモ現今ノ方針

ヨルモノナランカ然ルニ共同採種組合ニ於テ比重計ヲ用ヒ確實ニ施行スルニ於テハ必スヤ相當ノ利益ヲ收メ得ベキニヨリ共同施行ヲ獎勵スル所以ナリ組合ノ事業方法ハ左記準則ニヨリ承知セラレタシ

●共同採種組合準則

- 第一條 本組合ハ米種ノ改良ト鹽水撰ノ實行ヲ期スルヲ以テ目的トス
- 第二條 本組合ハ何村大字何字何及字何ニ住居スル農家ヲ以テ組織シ何々共同採種組合ト稱ス
- 第三條 本組合ニ左ノ役員ヲ置キ組合員中ヨリ之レヲ選舉ス
 - 組合長一名 副組合長一名 委員若干名
- 第四條 組合長ハ本組合一切ノ事務ヲ處理ス
副組合長ハ組合長事故アルトキ之レヲ代理ス
委員ハ組合長ノ諮問ニ應ジ且組合長ヲ補佐スルモノトス
- 第五條 役員ノ任期ハ二ケ年トス

二、米種ノ統一ヲ計ル

現今栽培セル品種ハ一ケ町村内ニ就テ調査スルモ數十種ヲ數フルニ至ル從ツテ產米ハ多種多様ニ亘リ聲價ヲ落スコト少ナカラサルニヨリ其地方ニ於ケル利害ノ適否ヲ考ヘ十種以内ニ限定スルニアリ

三、鹽水撰ノ實行ヲ期スル

鹽水撰ヲナシタル種子ハ唐箕選ノモノニ比シ一反歩ニ付三斗許リ多キコトハ本縣農事試驗場ニ於テ七ケ年ニ亘リ試驗セラレシ結果ナリト雖地方ヲ異ニスルニ從ヒ確實ニ前記ノ收量ヲ増スモノト斷定スルヲ得サルモ兎ニ角各地ニ於ケル試驗ノ成績及理論上ヨリスルモ幾分ノ增收アルハ絶對ニ疑ヲ容ル、餘地ナキモノトス然ルニ從來ハ之レカ實行者少ナキ理由ヲ考フルニ其施行ニ當リ鹽分ノ度不足ノ爲メ手數ヲ經ルノミニシテ利益ヲ認ムルコトナキニ

第六條 役員ニハ職務ニ應ジ一日金何拾錢宛報酬ヲ支給スルモノトス

第七條 組合長ハ組合員所要種籾ノ品種及數量ヲ調査スルモノトス

第八條 組合長ハ採種ノ時期ニ際シテ委員ヲ伴ヒ組合員ノ耕作田中ヨリ採種スベキモノヲ決定ス

第九條 採種地ノ決定終リ其ノ通告ヲ受ケタルモノハ之レガ採種ヲ拒ムコトヲ得ス

採種ノ通告ヲ受ケ之レカ採收ヲ終レバ直チニ組合長ノ下ニ差出スコトヲ要ス

第十條 組合長ハ採種者ノ持參シタル數量ヲ檢シテ受領シ組合員ヨリ費用ノ徵收ヲ終リタル時ハ直チニ相當代價ヲ仕拂フモノトス

第十一條 種子ノ價格ハ採種時期ニ於ケル米價ノ何割トス

第十二條 採種纏リタルトキハ組合長及委員ハ鹽或ハ苦汁ヲ購入シテ鹽水撰ヲナシ各組合員ヘ其ノ所要量ヲ配付シ尙ホ費用ヲ計算シ之レヲ通告スルモノトス

第十三條 組合員採種費用ノ通告ヲ受ケタルトキハ一

週間以内ニ之レヲ組合長ニ差出ス義務アルモノトス

右規定ニ違背セサル爲メ組合員一同記名調印ス

年月日

何々共同採種組合員

氏名印

以下 連署

因ニ記ス郡農會ニ於テハ一組合ニ對シ金貳圓五拾錢以内ノ獎勵金ヲ交付ス

● 柿樹改良

本郡内ニ於ケル劣等柿樹ニ對シ優良種ノ接穂ヲ交付シテ改良セシムル豫定ニテ昨年接替ヲ要スベキ樹種ヲ調査シタルニ現在本數一萬一千七百二本ナリ依ツテ之レヲ三ヶ年計畫ニテ全部接替セシムルタメ本春豊浦郡黒井村ヨリハツケ濱西条柿ノ穂木ヲ買入レ各村ヘ配付接木シタルモノ左ノ如シ

町村名	接木本數	町村名	接木本數
萩	六三二見	一七〇篠生	一九九

椿郷東分 八〇明木 一四〇生雲 三二二

椿 四〇佐々並 二四〇地福 一三九

山田 一五〇川上 二二〇徳佐 八四

嘉年 一一八大井 四四彌富 四〇〇

高俣 一七二奈古 一六八小川 二二〇

吉部 七二宇田郷 二一一田萬崎 一七九

福川 二〇〇福賀 一四三六島 一八

紫福 一七〇須佐 二四〇

計 四、二三五本

● 産業組合ノ現況

本郡内ニ現在セル組合左ノ如シ

一、組合數	一二
信用組合	六
信用購買組合	一
信用購買販賣組合	二
信用購買販賣生産組合	二
販賣購買組合	二

購買組合 三

- 二、組合員數 四千五百八十七人
- 三、出資總額金 六萬四千七百四拾四圓
- 四、準備金及其他ノ積立金 金九千八百八拾壹圓四錢七厘
- 五、大正二年度利益金 金九千四百拾圓五拾參錢
- 六、大正二年末現在貸付金 金貳拾萬貳千八拾八圓七拾壹錢
- 七、大正二年末現在貯金 金拾壹萬六千五百八圓五拾七錢六厘
- 八、大正二年度販賣高 金貳萬壹千八百八圓參拾四錢
- 九、大正二年度購買高 金六萬五千參百八拾六圓六拾錢九厘
- 一〇、生産組合事業ノ分量
- 1、石油發動機ニヨル糶摺白ヲ使用セシメ糶八百四十
- 二石ヲ玄米トシ使用料金九拾四圓六拾錢ヲ得タリ

2、大豆粉砕器ヲ十六度貸與シ使用料金壹圓五拾四錢ヲ得タリ
 3、噴霧器ヲ四度貸與シ使用料金貳拾五錢ヲ得タリ

●耕地整理ノ狀況

本郡内ニ於ケル濕田面積ハ明治三十八年ノ調査ニヨルニ三千五十二町歩ニシテ既ニ耕地整理ヲ完了シタルモノ左ノ如シ

明治三十四年	一二町三
同三十五年	一四、四
同三十六年	一七、七
同三十七年	二六、六
同三十八年	四二、三
同三十九年	三一、九
同四十年	四六、六
同四十一年	六八、五
同四十二年	一一二、〇
同四十三年	一三二、二
同四十四年	一二九、九
大正元年	一四〇、五

大正二年

計

一九二、九
九七六、八

●肥料自家配合ノ利益

昨年秋季肥料トシテ肥料ノ自家配合ヲ獎勵シ明木、地福、徳佐、嘉年、吉部、福川、紫福、大井、奈古ノ九ヶ村ニ於テ實施セシニ配合總量一萬二千五百九十四ノニ對シ市價ヨリ金八百五拾圓八拾八錢參厘廉價ニテ求メ得タリ其内廉價ノ程度ハ肥料及村ヲ異ニスルニ從ヒ相違アリト雖最大明木村硫曹五號肥料一噸ニ對シ金壹圓九錢最少吉部村ニ於ケル同肥料一噸ニ對シ金參拾錢市價トノ相違アリタリ

本年稻作肥料ニ對シテハ各町村ニ對シ獎勵ノ結果椿郷東分、椿、三見、佐々並、川上、嘉年、吉部、福川、紫福、宇田郷、福賀、須佐、小川、田萬崎ノ十四ヶ村ニ亘リ自家配合ヲナスベク決定シ郡農會へ原料ノ共同購入ヲ申込ミタル數量左ノ如シ

過磷酸石灰五千九百二十ノ
 硫酸アンモニヤ二千四百三十ノ

即チ郡農會ニ於テ肥料商ヲシテ競争入札ニヨリ納入者

ヲ決定セシメ過磷酸石灰十ノニ付金九十四錢硫酸アンモニヤ十ノニ付金五圓五十六錢ニテ椿郷東分村中村清助ヨリ買入ル、トニ決定セリ之レニ依リ計算スルニ硫曹五號肥料一噸ニ付金貳圓九錢五厘ニ當リ萩ニ於ケル市價ニ比シ一噸ニ付金六拾五錢五厘ノ廉價ニテ求メ得ベシ

●泥負虫驅除ノ方法

泥負虫ハ六月ノ候出現シ苗代及本田ニ於テ葉肉ヲ蝕害シ稻ノ成育ヲ害スルト甚ダシキモ七月下旬以後ニ至レバ全ク休眠ノ状態トナリ被害ヲナサルニヨリ打捨テ置クモ自然ニ消滅スベシト唱へ驅除ニ注意スルモノ少キモ幼苗ノ時期ニ於テ害ヲナスニヨリ其結果ハ稻ノ成育上一大打擊ナルカ故ニ左ノ方法ニ基キ驅除スベキト肝要ナリ

石油一升ニ除虫菊粉二十匁乃至三十匁ヲ投シ一晝夜乃至二晝夜間密閉シ時々振蕩シテ藥液ヲ製シ豫メ田地ヘハ充分水ヲ湛ヘ一反歩ニ付藥液六合乃至八合ヲ水面ニ潑ナリ滴下シ笹葉等ヲ以テ稻葉ニ附着セル虫ヲ拂ヒ落スヘシ但其場合ニ於テ幾分ノ虫ハ株間葉梢間ニ狹マリ

油面ニ落下セサルモノアリテ再ビ這ヒ上ルニヨリ二三時間ヲ經テ尙一回拂ヒ落スベシ
 右驅除終ラバ水口ヨリ清水ヲ引キ入レツ、田面ノ水ヲ排除シテ油分ヲ排出スルヲ可トス又苗移植ノ際産卵附着ノ有無ニ注意シ發見次第之ヲ取除クベシ

●肥牛組合ノ設置

紫福村字長尾ニ於テハ大正三年四月郡告示第二十號肥牛組合獎勵金下付規則ニ基キ左ノ事業ヲナス目的ニテ二十名ニテ組合ヲ結ビ獎勵金下付ノ申請ヲナシタルニヨリ五月六日金貳拾圓ノ獎勵金ヲ下付シタリ

- 一、畜牛ノ共同販賣及共同購入ヲナスコト
 - 二、畜牛ノ育成及肥養ヲナスコト
 - 三、畜舎ノ設備ヲ改良スルコト
 - 四、飼料ノ共同購買ヲナスコト
 - 五、組合員相互救済ヲナスコト
- 因ニ組合員現在ノ飼養牛數ハ四十二頭ナリ

●春蠶ノ掃立

本春本郡内ニ於ケル春蠶ノ掃立左ノ如シ

本年豫想 前年ノ實收 差引
 掃立枚數 七九七似 七二二枚 七五枚増
 收購高 八八〇石 八二六石 五四石増
 霜害ノ爲メ東部及佐々並地方ハ桑葉ノ被害ヲ受ケタル
 モノ少ナカラズシテ一時ハ供給ニ困難ヲ感ゼリ且發生
 當時ノ氣候寒冷ナリシ爲メ掃立ノ初メハ四月二十五日
 ニシテ終リハ五月十三日ノ長期間ニ亘レリ然レ共爾來
 氣候順ヲ得タル爲メ桑葉ノ過不足ナク蠶兒ノ生育亦良
 好ナリ

●輕便養蠶法傳習

勞力不足ノ地方ヘ對シ輕便養蠶法獎勵ノ爲メ吉敷郡西
 岐波村ヘ山口縣養蠶傳習所ヲ設ケ傳習生十五名ヲ入所
 セシメ過ル四月十日開所セラレタルカ蠶兒ハ五月廿七
 日頃上簇ノ豫定ナリ
 本法ハ櫛飼ニシテ對桑育ニ比シ異ナル点ヲ舉グレハ左
 ノ如シ
 一、催青 華氏八十度ノ平進溫度ヲ以テ十一二日間催
 青ス
 一、掃立法 發生セシ蠶兒ヲ羽箒ニテ拂落スコトナク

桑葉ヲ散布シ之レニ移ラシム
 一、分席 一、二令及三令盛食期迄ハ普通對桑育分席
 ノ約半ハトシ以後ハ以前ニ比シ稍々廣席ス
 一、給桑 一、二、三、令間ハ全葉三令中ハ全芽ヲ用
 ユルコトアリ四五令間ハ舊新枝ノ儘之レヲ
 給ス
 一、給桑回数 各令共一日三回乃至四回
 一、飼育中 火力使用ノ場合ハ七十二、三度
 一、除沙 一、二、三、令中ハ糸網使用四五令中ハ蠶
 座ノ上ニ小サキ棒ヲ二本横ニシ其上ニ枝桑
 二回ヲ給シタル後棒ト共ニ他ノ蠶座ニ移ス
 一、二、三、令中ハ對桑育ノ如ク莖ヲ用ヒ
 テ飼育スルモ四、五、令中ハ莖ニ代ユルニ
 竹箒ヲ用ヒ蠶糞ノ落ツルヲ防グタメ蠶座ト
 約二、三寸ヲ隔テ、下ニ別ニ莖ヲ置キタル
 蠶座ヲ挿入ス 除沙回数ハ一、二、三、令
 間ハ臨機四令中二、三回五令中毎日一回宛
 行フ

一、稚蠶中濕 莖ヲ頻繁ニ取代ユ
 氣多キ時

●大正三年度勸業ニ關スル縣郡費獎勵金

一、上簇法 同一蠶兒中約二割前後ノ熟蠶ヲ認メタル
 時全部一回ニ上簇セシム
 一、給桑量及 給桑量ハ普通對桑育ニ比シ二割乃至三
 飼育勞力

下付事項

下付條件

縣

費

下付金額

下付條件

郡

費

下付金額

○普通農事

堆肥場改良

耕地整理

農事講習生

一、橋梁溜池ノ變更廢置及灌溉排水
 二、關スル特別ノ設備若クハ工事
 一、灌溉排水ニ關スル特別ノ設備若
 クハ工事ヲ併セ行フモノ
 一、其他ノモ
 但シ獎勵費ハ工事費ノ十分ノ一
 ヲ超ヘス

反當 五圓以內
 反當 拾錢以內
 反當 壹圓五十錢
 以內

一、前年ノ通
 一、事務整理ノ爲メ指定事務員ヲ雇
 入ル、モノ

一坪ニ付貳
 拾五錢以內
 一日ニ付六
 拾錢
 一人一ヶ月
 參圓

畜産業

種牡牛購入

種牡牛購入
又ハ保存

煉乳並ニ乳
油製造

- 一、年齢満十八ヶ月以上満四十八ヶ月以下ノモノ
- 二、体格強壯性質善良ニシテ種牡牛トナスニ適スル資格ヲ供ヘ優良ナルモノト認メタルモノ
- 三、種類血統明カナルモノ
- 四、獎勵金ヲ受ケタルモノハ三ヶ年間保存ノコト

鑑定價格ノ三分ノ一以内

- 一、年齢満十八ヶ月以上満四十八ヶ月以下ノモノ
- 二、体格強壯性質善良ニシテ種畜トシテ蕃殖用ニ適スルモノ
- 三、種類血統明カナルモノ
- 四、獎勵金ヲ受ケタルモノハ三ヶ年間保存ノコト
- 一、煉乳ハ一日百磅以上ヲ製造シ得ルモノ
- 二、乳油ハ一日十磅以上ヲ製造シ得ルモノ
- 三、熟練セル技術員カ事業ニ従事スルコト
- 三、獎勵金ヲ受ケタルモノハ五ヶ年間事業ノ成績ヲ知事ニ報告セシム

一頭ニ付平均拾七圓
事業費ニ對シ貳百圓以内

蠶絲業

家畜去勢

肉牛肥養

畜産特別施設

種牡候補牛
保存

一、畜産業ノ改良發達ヲ圖ル目的ヲ以テ特別ノ施設ヲナスモノ

設備費及事業費ニ對シ貳百圓以内

- 一、郡長ニ於テ將來種牡牛ニ適スルモノト認メタルモノ
- 二、種牡牛ニ供シテヨリ滿一ヶ年間保存ノコト
- 一、前年ノ通り

一頭ニ付拾圓

一頭ニ付壹圓但郡技術員ノ施術セシムノハ五拾錢

- 一、當業者二十名以上ニテ組合ヲ結ブコト
- 二、組合員肉牛肥養若クハ育成ヲ行フコト
- 三、組合員全部畜舎ノ設備ヲ改良スルコト
- 四、畜牛ハ共同賣買ヲナスコト
- 五、飼料ノ共同購買ヲナスコト
- 六、組合員相互救濟ノ方法ヲ設クルコト

一組合ニ付貳拾圓

桑園設置

蠶絲ニ關スル品評會開設

製絲傳習所

養蠶傳習所

養蠶傳習生

蠶絲業特別施設

蠶業優良町村及町農會表彰

一、養蠶栽桑ノ業今猶幼稚ナルモ獎勵有シタルコトヲ知事ニ於テ認メ指定シタル地域内ニ於テ一ヶ所二町歩以上ノ桑園ヲ設クルモ

一、反歩ニ付五圓
但シ新墾地ハ五圓ヲ増ス

一、申請者ハ町村若クハ町村農會ナルコト

一、拾五圓以内

一、傳習生十五名以上ナルコト

一、貳拾五圓以内

一、開設期間十日以上ナルコト

一、貳拾五圓以内

一、申請者ハ町村又ハ町村農會ナルコト

一、貳拾五圓以内

一、傳習生ハ十名以上ナルコト

一、五拾圓以内

一、特別ノ必要ニヨリ郡長ノ推薦ニヨルモノ

一、一人ニ付二十圓以内

一、施設方法ニ付知事ノ認可ヲ得タルモノ

一、經費ノ三分ノ一以内

一、申請者ハ町村若クハ町村農會又ハ二十名以上ノ團體ナルコト

一、前年ノ通り

一、稚蠶共同飼育場ハ特別施設ニ包含セス

一、前年ノ通り

一、知事ニ於テ認定セラレタルモノ

一、擔當額

一、前年ノ通り共同桑園ノ設置

一、反歩ニ付拾五圓以内

五十圓以内

蠶業教師雇入

○林業

公有造林

荒廢地復舊

樹苗養成

○茶業

一、町村町村農會又ハ當業者十五名以上ノ團體ニ於テ飼育季節中教師ヲ雇入ルハ、モノハ二十名以上ノ蠶量ニ掃立ツルコト

一、教師ノ給料ノ内ハ當業者ヨリ蠶量者ノ支出セシメ不足額ハ之ヲ奨勵トシテ下付ス

一、大字其他雜部ノ所有タリシ土地ヲ明治聖三年三月以後市町村ノ所ヨリ移シタル土地ニ造林スルコト

一、一町歩ニ付二十四圓以内

一、市町村ノ所有ニ屬スル土地ニ造林スルモノ

一、一町歩ニ付二十圓以内

一、縣郡町村組合又ハ大字其他ノ部落ノ所有ニ屬スルモノニ造林スルモノ

一、一町歩ニ付十圓以内

一、森林法第二十七條ノ指定ニヨリ地盤ノ保護工事をナスモノ

一、工事費ノ六分ノ五以内

一、郡市町村郡市町村組合市町村農會青年會在郷軍人會等ニ於テ市町村又ハ市町村組合ノ造林ニ用フベキ樹苗ヲ養成スルモノニシテ床面三畝歩以上ノ一回床替ヲナスモノ

一、一畝歩ニ付三圓以内

一、同七坪以上播種ヲナスモノ

一、一坪ニ付五十錢以内

一、町村ニ於テ其町村ノ造林ニ用ユヘキ樹苗養成ニ對シ前年通り補助金ヲ下付ス

苗木ハ一萬本ニ付五圓以内

並ニ漁獲物 處理ニ關ス ル改良設備	二、處理運搬船ニ改良設備ヲナスモ 三、二ケ年以上其事業ニ従事スルモ	設備費ノ五 分ノ一以內
養殖蕃養池 ノ設備	一、縣廳ニ於テ必要ト認メラレタル 水産動物ノ養殖又ハ蕃養ヲナ スモノ 二、二ケ年以上其事業ニ従事スルモ	設備費ノ五 分ノ一以內
養殖ノ施設	一、縣廳ニ於テ必要ト認メラレタル 水産動物ノ養殖ニシテ未ダ行 ハレサル地方ニ於テ其施設ヲナ スモノ 二、二ケ年以上其事業ニ従事スルモ	施設費ノ三 分ノ一以內
蕃殖保護施 設	一、縣廳ニ於テ必要ト認メラレタル 水産動物ノ蕃殖保護ノ施設ヲ ナスモノ 二、二ケ年以上其事業ニ従事スルモ	施設費ノ三 分ノ一以內
水産業ニ關 スル特別施 設	一、前記各項ノ外、水産業ノ改良發達 ニ關シ特ニ必要ト認メタル施設	不定
煮干鱺製造 法改良		
鱺處理改良		

一、煮籠二百枚以上ヲ調製スルモノ
一、鱺縮粕製造ノ爲メ壓搾器ヲ調製
スルモノ

一人ニ付
五圓以內
一ケ所ニ付
十五圓以內

●其他
物産品評會

●獎勵規程廢止

○大正二年十一月阿武郡告示第四十五號樹苗及蘭苗下
付規則、大正二年四月阿武郡告示第二十七號製炭改良
獎勵金下付規則、明治四十五年四月阿武郡告示第十八
號製炭傳習補助金下付規則、大正二年四月阿武郡告示
第二十四號養蠶術研究生補助金下付規則、大正二年四

一、二ケ町村以上ノ區域ニ亘リ出品
スルモノ

二ケ町村以
上褒賞狀及
獎勵金十圓
以內
三ケ町村以
上褒賞狀及
獎勵金十五
圓以內
六ケ町村以
上褒賞狀及
獎勵金三十
圓以內

月阿武郡告示第二十三號茶業獎勵金下付規則、大正二
年四月阿武郡告示第十八號製紙獎勵金下付規則、大正
三年四月一日阿武郡告示ヲ以テ各廢止セリ

大正三年六月四日印刷
全年全月五日發行

發行所 山口縣阿武郡役所

山口縣阿武郡萩東田町三三六番

印刷所 國華新聞社

資料